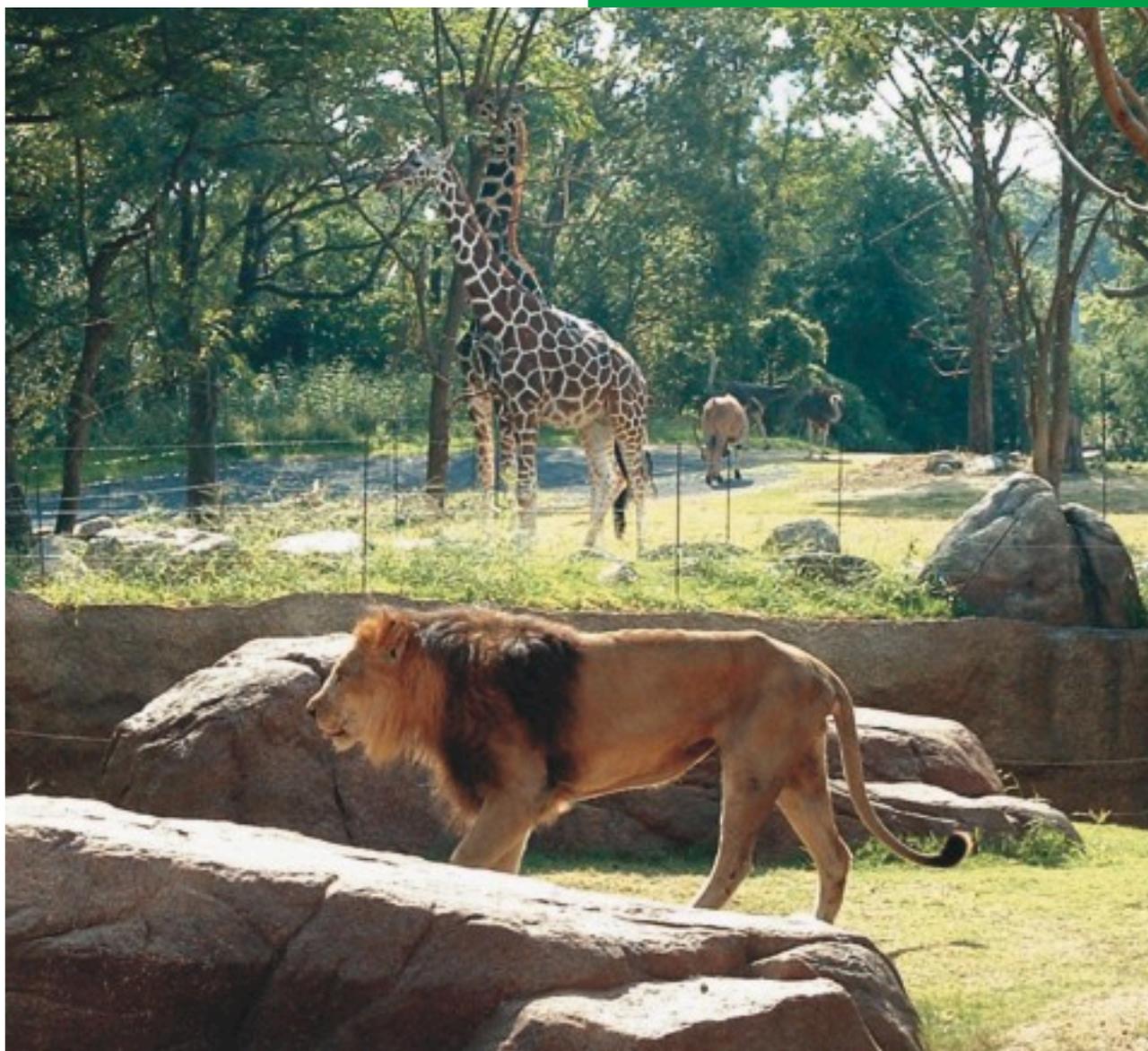


CLA journal



■特集/2010年ランドスケープコンサルタンツ協会賞 (CLA 賞)

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、安全で豊かな環境の創出、すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、技術競争の時代に対応します。

3. 社会的信頼の獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4. 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5. 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造—造園コンサルタントビジョン—」より

目 次

特集：2010年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）

■ 最優秀賞	
【設計部門】	
天王寺動物園「アフリカ・サバンナ草食動物／肉食動物ゾーン」	2
【調査・計画部門】	
国営昭和記念公園	
生物関連情報調査分析および活用業務	4
■ 優秀賞	
【設計部門】	
越谷レイクタウン大相模調節池修景設計	6
【設計部門】	
ひろしまガーデン・ガーデン	8
【調査・計画部門】	
広域レベルの生態系ネットワークの形成に向けた空間計画検討	
－生態系ネットワーク形成検討調査業務－	10
【調査・計画部門】	
鹿児島市景観計画	12
■ 特別賞	
【設計部門】	
浜松モザイクカルチャー世界博2009	14
【調査・計画部門】	
第26回全国都市緑化おかやまフェア会場計画	16
■ 奨励賞	
【設計部門】	
秋吉台自然動物公園サファリランド「キッズサファリ」	18
【設計部門】	
「花畑公園：パークで筋トレ」	20
【調査・計画部門】	
大野城市ふるさと文化財保存整備活用基本計画	21
【テーマ部門】	
板付ドリチャン倶楽部	
～「身近なまちなか、まちかどのランドスケープ」創造の試み	22
■ CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし	23
■ 受賞技術者プロフィール	24

活動報告：公園施設長寿命化計画策定補助制度への取組み

「公園施設長寿命化計画策定補助制度」への取組み	27
公園施設長寿命化計画にかかるランドスケープコンサルタントの役割と課題	28
北海道支部／公園施設長寿命化計画標準業務報酬積算ガイドライン（案）策定について	29
関東支部／「公園施設長寿命化計画」業務に係る CLA 版仕様書・報酬ガイドライン等に関する説明会	31
中部支部／公園施設長寿命化計画策定への取組み	32
関西支部／公園施設長寿命化計画説明会を開催して	32
九州支部／公園施設長寿命化計画の説明会	33

支部活動報告／34
会員名簿／35
お知らせ／40
編集後記／40

表紙の Photo Story

最優秀賞を受賞した天王寺動物園「アフリカ・サバンナ草食動物／肉食動物ゾーン」は、「生態的展示」や、「エンリッチメント」といった新しい動物の展示方法が取り入れられており、ひとつの景観の中で草食動物と肉食動物が同時に観察できるように工夫されている。自分が幼稚園、小学校の遠足で行った動物園とはかなり様子が違うようだ！ 詳細は本誌2ページを参照してください。



天王寺動物園 「アフリカ・サバンナ草食動物／肉食動物ゾーン」

株式会社空間創研 佐々木宏二・名取重広・安田卓宏・奥川良介

□はじめに

典型的な都市型動物園である天王寺動物園では、社会に求められる新しい動物園のあり方を確立するため、「生態的展示（ランドスケープ・イマージョン）」の考え方を軸としたリニューアルが進められてきました。本対象ゾーンは、キリン・シマウマ等8種の草食動物、ライオン・ハイエナ等5種の肉食動物を展示・飼育する施設です。

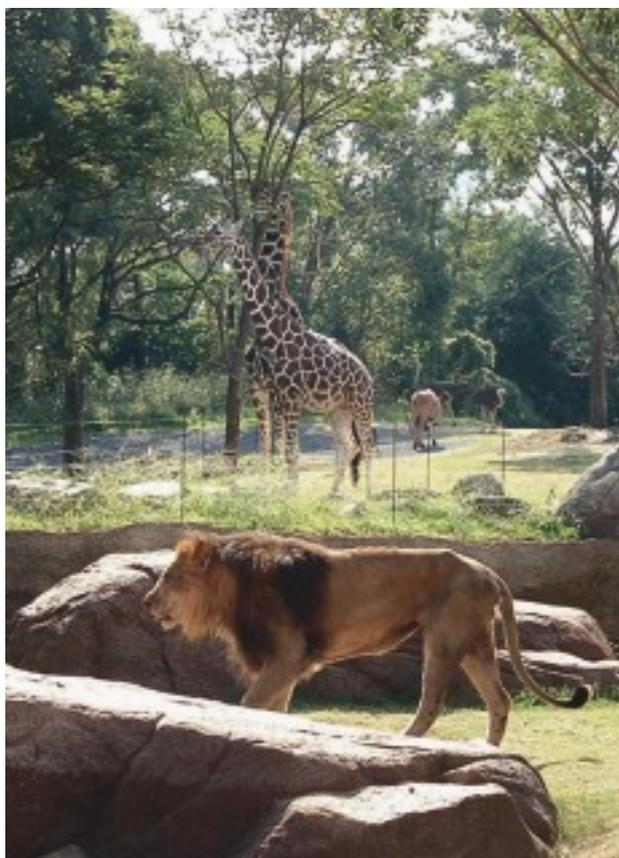
□生息地の景観調査に基づくリアリティ

生態的展示は生息地環境（habitat）の再現が本質であることから、本プロジェクトでは、わが国の動物園計画では初めてのケニア・タンザニア地域の景観調査を行いました。そして、セレンゲティ国立公園（タン

ザニア）やマサイ・マラ国立保護区（ケニア）等に展開する多様な景観を目の当たりにし、そこに適応して生息する動物との関係性をテーマと決め、リアリティのある生息環境づくりを行いました。

□3つの展示テーマと、深い感動と自然環境への認識が得られる空間を目指して

展示テーマは「サバンナ景観の多様性」「動物、植物、地形・地質の関係性」「さまざまな生態的地位—動物の適応と多様性」の3つです。そして、あたかもサバンナに分け入り動物と遭遇したかのような空間を創出することで、観客が景観との一体感や臨場感を体感し、深い感動と自然環境への認識が得られる空間づくりを目指しました。また、要所に点在させた解説サインが、



「生態的関係性」への理解を高める、草食動物と肉食動物の通景



生息地の景観調査に基づく
展示空間の写実的表現



至近距離でライオンと遭遇する
ガラスビューでの驚き

作品概要

作品名：天王寺動物園「アフリカ・サバンナ草食動物／肉食動物ゾーン」
 所在地：大阪市天王寺区茶臼山町天王寺動物園内
 発注：大阪市都市整備局営繕部
 設計：株式会社空間創研
 設計協力：サバンナプロジェクト委員会(天王寺動物園)，株式会社大建設，有限会社 be Project
 設計監修：大阪芸術大学芸術学部環境デザイン学科 若生謙二教授
 監理：大阪市都市整備局営繕部工事課，株式会社空間創研
 施工：モリタ建設株式会社，株式会社雄健建設，株式会社アトリエ・ティーエムバーガー
 計画期間：平成8年4月～平成9年3月（草食動物／肉食動物ゾーン）
 設計期間：平成9年10月～平成10年3月（草食動物ゾーン）
 平成15年8月～平成16年3月（肉食動物ゾーン）
 施工期間：平成10年9月～平成12年2月（草食動物ゾーン）
 平成17年6月～平成18年8月（肉食動物ゾーン）
 規模：9,370 m²（草食動物ゾーン）／3,500 m²（肉食動物ゾーン）
 主要施設：キリン舎，草食動物舎，肉食動物舎，ビューシェルトー，便所棟，草食動物混合放飼場，フラミンゴ放飼場，シママンギース放飼場，ハイエナ放飼場，ライオン放飼場，サブパドック，モート，池，流れ，観覧デッキ，ほか

作品評

本作品は、1915年に開園した天王寺動物園を「Zoo21計画」のもとにリニューアルを行うものであり、これまでにない動物園の設計として注目された。
 この天王寺動物園のリニューアルに当って、「生態的展示」や、「エンリッチメント」といった新しい動物の展示方法が取り入れられており、先駆性やオリジナリティ、情報発信性、インパクトが感じられ、高く評価された。
 空間構成においては、さまざまなバリエーションを利用しながらそれらを観察者に見えないようにすることにより、ひとつの景観の中で草食動物と肉食動物が同時に観察できるようにしており、あたかもサバンナで実際に野生動物を観察しているように感じさせる空間を、限られた敷地の中に作り上げている点が秀逸である。
 また、この作品の設計に当って、セレンゲティ国立公園やマサイ・マラ国立保護区など、実際のサバンナを訪れて景観調査を行っている点が、ランドスケープの設計プロセスとしても評価できる。
 そのほかに、既存の樹木を保全し、それらをサバンナを再現する空間の中に違和感なく活用するなど、さまざまなアイデアや工夫が見事な景観を形成した優れた作品である。

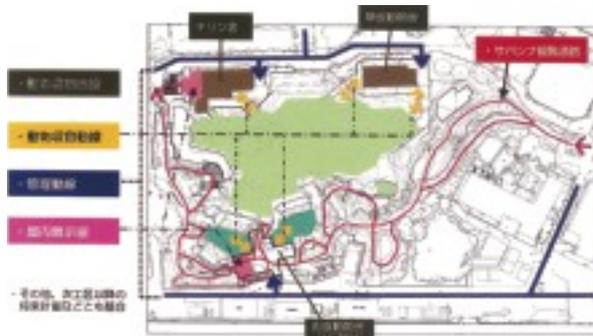
人と自然の関わりを捉え直す契機となるよう配慮しています。

■ 景観デザインの手法

アフリカサバンナの特徴である草食動物と肉食動物が同時に見られる景観を、限られた敷地の中で創り出すため、コピエと呼ばれる岩山や水堀・空堀等を複合的に用い、既存木の活用や地形づくり等によって奥行きのある通景として構成しました。

■ 生きた博物館として

観客は、動物と植物によって育まれるサバンナの景観を通じて、その生態系への理解が深められます。本展示空間がサバンナの生きた博物館として機能するとともに、都市公園の豊かな緑や憩いの場を育む理想的な手段として、広く市民の共感が得られることを願います。



展示演出の中に入念に組み込まれた、各種管理動線や施設群



主役が美しく、尊厳に満ちた印象を感じさせるために、観客が動物を軽く見上げる景を演出



先の見えない園路も期待を高める仕掛け



「ランドスケープ・イメージョン」の概念より生み出された状況／サバンナの景観に浸る観客は、サバンナの風景と一体化する



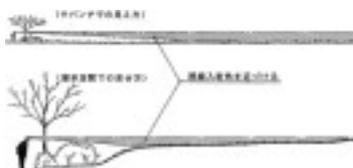
本物(シママンギース)とレプリカ(ナイルオオトカゲ)による複合型展示



枝葉を取り付けられるエンリッチメント器具とガイドポイントを展望テラスに併設



粗野なビューシェルトー



視線入射角による奥行き演出



保存木を抜ける木橋



都会のオアシス



国営昭和記念公園 生物関連情報調査分析および活用業務

株式会社緑生研究所 田中利彦・伊藤休一

□背景

国営昭和記念公園は平成20年に開園25周年を迎えた。昭和52年に全面返還された米軍立川基地跡地に武蔵野の景観の蘇生が進められ、樹林や水辺などの環境創出と維持管理が実施されてきた。この自然再生の効果は、約5年ごとに継続されてきた生物相のモニタリング調査（「エコアップ調査」）を通じて明らかにされてきた。さらに、平成14年度には、園内における生物情報（分布情報、解説情報、写真、動画など）を収集・蓄積・活用する体系的な行為である「バイオアーカイブ」の構想が導き出され、情報の蓄積が進められてきたが、その情報資源の活用・公開をいかに進めていくかが課題となっている。

□概要

園内全域を対象として、年間を通じた生物調査（植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類、水生生物）を実施した。この調査で得られたデータや知見等を活用し、以下の検討を行った。

- ・GIS解析および統計解析による環境構造の分析を通じた、公園が有する生物生息環境としての機能評価
- ・各種媒体による来園者への生物情報の提供手法検討およびコンテンツ作成（生物情報ホームページ「公園図鑑」、QRコードによる生き物解説、生き物紹介パンフレット）
- ・公園利用と生物相保全とのバランスに配慮した生態環境管理手法の検討・提案



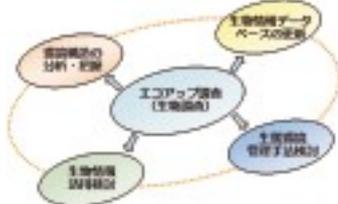
確認種：カイツブリ



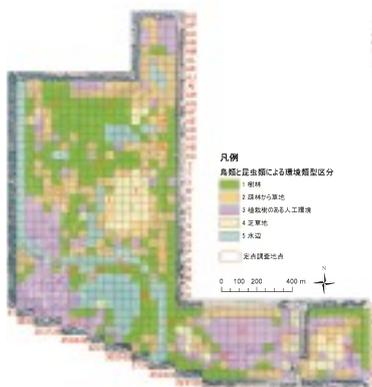
確認種：シュレーゲルアオガエル



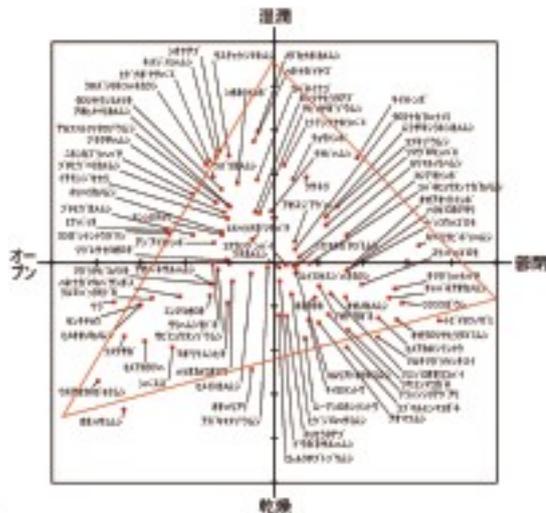
確認種：キイトンボ



業務の構成



生物と環境との対応の分析に基づく環境類型区分図。樹林・草地・水辺に代表される園内の主要な環境要素は、それぞれに特徴的な生物相を成立させており、生物生息場所としての性格が明瞭に分かれる解析結果となった。



正準対応分析によって環境構造の軸上にプロットされた昆虫類の位置。オープンスペースの草地環境は湿性から乾性まで広い幅をもち、それぞれの環境に対応した典型的な種が分布している。

作品概要

作品名：国営昭和記念公園生物関連情報調査分析および活用業務
 対象地：国営昭和記念公園（東京都立川市・昭島市）
 発注：国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所
 事業目的：国営昭和記念公園において生物とそれをとりまく生態環境に関して調査・分析し、当公園における管理手法の検討、また公園が果たすべき情報発信の検討を行うこと。
 事業体制：国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所からの委託により株式会社緑生研究所が単独で実施。
 協働者等：なし
 事業期間：平成20年4月～平成21年3月
 事業規模：契約金額 約1900万円

作品評

本作品は、国営昭和記念公園全域を対象とした生物と生態環境の調査・分析をもとに、管理手法や情報発信の方法などを検討した業務であり、従来の生態環境の保全を目的とした管理計画にとどまらず、データ解析をもとに生息環境の機能を客観的に評価し、公園利用と生物保全のバランスを配慮した管理手法の検討や、レクリエーションニーズに対応した生物情報を活用する提案を行っていることなどが特色となっている。
 調査分析においては、多岐にわたる調査と膨大な情報量の分析を、ビジュアルに留意しながら簡潔に体系化してまとめられており、とくにGISや統計解析による環境構造を分析する手法の説得力がある。また、活用計画においては、情報発信に生物の動画を導入し音声読み上げなどノーマライゼーションに配慮している点、外来種を衰退させるための管理手法など、実用的な提案として注目される。
 本作品は総合力が秀でており独自の提案が為されていることを高く評価し、今後の生物調査・情報発信計画における範を示すものであるとして、最優秀賞とした。
 この成果は国営昭和記念公園のみならず、広域的な観点からも貴重なストックであり、今後の活用展開が期待される作品である。

□主な特徴

- ・来園者への生物情報提供、既存の生物情報データベース「バイオアーカイブ」の更新、環境管理指針の作成、統計解析による生息環境評価など、多方面にわたる業務項目にデータを活用しうるような生物調査の手法設計を行った。
- ・生物群集と環境構造の関係性を把握・評価するために、GIS解析および複数の多変量解析手法を組み合わせ分析を行い、その結果を視覚的に理解できる図表現として示した。
- ・生物情報ホームページ「公園図鑑」の作成では、個々の生物を図鑑的に紹介するのみならず、動画などの

動的な要素を取り入れて訴求力を高めることを目指した。

- ・生態環境管理手法の検討にあたっては、現況の公園管理との整合に配慮し、現行の体制下で実施可能であり、かつ実効的な保全効果が得られる管理手法の提案を目指した。

□成果の活用

本業務の成果を媒介として、公園の自然環境がもつ生態系サービス（文化的サービス）への公園利用者のアクセシビリティが高まり、自然への理解が深まることを望む。



生物情報ホームページ「公園図鑑」の動画ページ。左上はミンミンゼミの羽化シーンの再生画面。



QRコードを活用した生き物解説システム。園内の主な生物生息拠点に設置されるQRコードを携帯電話で読み取ると、解説と写真が表示される。



生き物紹介パンフレット（初夏～夏編）。早春～春編、初夏～夏編、秋～冬編の3種類で、主な生物生息エリアで見られる生き物を紹介。公園の自然再生の取り組みも解説。A4サイズ三つ折り。

作品概要

作品名：越谷レイクタウン大相模調節池修景設計
 所在地：埼玉県越谷市大成町
 発注：独立行政法人都市再生機構 埼玉地域支社
 設計：株式会社総合設計研究所
 設計協力：有限会社穂高建築設備事務所（電気・給水設備）、有限会社和田アトリエ（建築構造）
 監理：
 施工：西武造園株式会社、戸田建設株式会社
 設計期間：平成18年10月～平成19年9月
 施工期間：平成19年～平成20年度
 規模：26 ha
 主要施設：レイクサイドウォーク、畦草地、浮島、ワンド、井戸とせせらぎ、水上ステージ、栈橋、パーゴラ、トイレ（管理スペース・電気室）、水位標、噴水、照明、転落防止柵、水位警報施設等

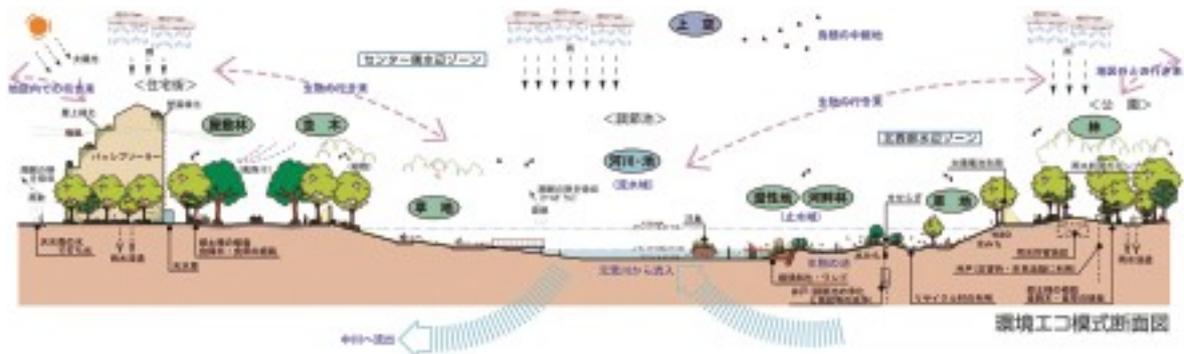
いの広場型空間でレクリエーション的利用、イベント的利用に対応する構成となっている。チャンネルゾーンは、住宅地と一体的な親水空間と階段型の護岸で構成された空間である。

作品評

本作品は、テーマに即し地域資源の活用、環境エコの取組み、自然環境の保全・創出、レクリエーションの場の提供などの要求に対し、高い技術をもって取り組んだ作品であり、広大な対象地においてランドスケープが受け持つ基本的な機能が多く実施されているため、一見、あたりまえのように見えるものとなっているが、そのひとつひとつが真剣に、かつていねいに取り組んだ結果であり、それぞれの要素が関連性を持ちつつ、シンプルにバランス良く計画・設計されているところが高い評価につながった。

とくに、広域的郷土のネットワークを活かしたランドスケープの検討からコンセプトを導き、景観形成や循環型社会への寄与などのランドスケープデザインにつなげていく点は高く評価された。

各ゾーンは調節池を一周する全長5.7 kmのレイクサイドウォークが連絡しており、新しいまちで展開する人々の日常やアクティビティ、生物の営みなど、さまざまなシーンをネットワークしていくことであろう。



北西部水辺ゾーンのビオトープ
 (ワンド・浮島など)



自然石護岸の汀



カヌー・ディンギー体験会の様子
 (浮き栈橋)



多目的広場
 (北西部水辺ゾーン)



エントランスパーゴラ／稲干しのパーゴラ

屋根部にソーラーパネルを設置し、井戸や噴水によるばっ気に利用している。



北西部水辺ゾーンに生息する生物





ひろしまガーデン・ガーデン

株式会社ヘッズ 中西広樹・杉浦 守・松本将司

ひろしまガーデン・ガーデンは平和記念公園から徒歩15分ほどの場所にあり、日赤病院や広島市役所などが周辺に近接する市の中心地に位置する。この中区東千田の地は、広島大学の本部が長く置かれていた場所であり、都市部の高い利便性と都心では希少といえるゆとりある敷地空間と豊かな緑環境が計画敷地にも継承されている。

本計画では、2棟のタワーマンションとコモンハウス、立体駐車場の足元に確保された約4000㎡の屋外空間に対して、緑と水が織りなす都市庭園と建築が一体化することにより、ただ眺めるだけではなく住む人が楽しく利用できる新たな都心の潤いの空間づくりを目指している。

その手法として、屋外空間を建築に呼応する5つのエリアに分け、それぞれにテーマ性を持たせたガーデンを組み込むことにより、都会の真中に在りながら日々の暮らしの中で緑を深呼吸する清々しさに溢れる空間、自然の豊かさとともに暮らす場づくりを行っている。

これらのガーデンの中を巡ると、つぎつぎと趣の異

なる空間が現れ、幾つものシーン（風景）に出会える空間デザインとなっている。

- ・エントランスガーデン〔歓迎の庭〕は、住まう人、訪れる人をやさしく迎え入れ、暮らしの場へと誘う木漏れ日のプロムナード空間である。
- ・メインガーデン〔華やぎの庭〕は、広がりのある空間の中に規則的に配置された樹木やカスケードで構成され、園路を歩くと視点の変化で変わる景色の面白さや季節の移ろいを楽しめる。
- ・コミュニティガーデン〔集いの庭〕は、コモンセンターと一体的に利用できる集いの広場であり、子供達の遊びの場として多目的に利用できるオープンスペースとなる。
- ・リビングガーデンは、「ローズガーデン」〔賑わいの庭〕、「ウォーターガーデン」〔潤いの庭〕といったテーマを持った各住棟のエントランス空間であり、住む人たちが屋外のリビングスペースとして憩い、笑顔を交わす空間を形成する。



エントランスガーデンのアクセントとなるガゼボよりメイン・ガーデンを望む

作品概要

作品名：ひろしまガーデン・ガーデン
 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1-52
 発注者：株式会社トータテ
 設計：株式会社ヘッズ（屋外設計）
 中西広樹，杉浦 守（企画立案）
 杉浦 守，松本将司（実施設計，設計監理）
 株式会社オールアイエー（建築設計）
 施工：株式会社竹中工務店
 設計期間：平成18年6月～平成21年8月
 規模：敷地面積14353.48 m²（申請時），建築面積1044.05 m²
 ノースタワー棟（257戸），サウスタワー棟（197戸）
 コモンハウス
 駐車場408台（自走式358台，平面式45台，来客用5台）
 エントランス・ガーデン〔歓迎の庭〕
 メイン・ガーデン〔華やぎの庭〕
 コミュニティ・ガーデン〔集いの庭〕
 リビング・ガーデン（サウスタワー）〔賑わいの庭〕
 リビング・ガーデン（ノースタワー）〔潤いの庭〕

作品評

本作品は、2棟のタワーマンション、立体駐車場、コモンセンターといった建築施設に呼応する屋外空間のコンセプト立案とそれに基づくガーデンの設計、施工監理である。
 タワーマンションの威圧感、敷地形状等、さまざまな制約がありながらも、建築施設と一体となった5つのガーデンの質の高さが高い評価を得た。
 不動産の価格崩壊が顕著となり整備費が圧迫されている近年の民間発注の業務において、このように質の高い作品が作られたことは注目に値する。
 また、洗練された施設デザイン、細かな植栽配植から設計者の確かな技術力を感じ取ることができた。
 都市的でありながら、自然の趣を感じさせる5つのガーデンが、そこに住む人々にとともに成長することを期待したい。



メインガーデン〔華やぎの庭〕



緑と水が織りなす都市庭園と建築が一体化した潤いの空間へ



趣の異なる空間を巡り、出会う幾つものシーン（風景）の創造



リビングガーデン〔賑わいの庭〕



リビングガーデン〔潤いの庭〕



憩い、笑顔をかかず個性あふれる空間の創出



広域レベルの生態系ネットワークの形成に向けた空間計画検討 —生態系ネットワーク形成検討調査業務—

株式会社プレック研究所 中川有里・村瀬俊幸・岩田周子・米塚佐世子

現在、緑地の配置や自然環境の保全を考える際には、生物多様性の保全とそれを支える生態系ネットワークの形成が、何より重要であると考えられるようになってきています。その背景には、人間を含めてすべての生物は、ほかの生物とのつながりの中で生きているため、貴重な種や貴重な自然環境の保全といった限定的な取組みでは不十分であり、多種多様な生物の生存の基盤である生態系全体の保全が重要であるとの認識の広がりがあります。

一方、人間活動は依然として拡大し続けており、生

態系の空間的なつながりが分断され、孤立するといった状況が増えてきています。分断され、孤立した自然環境は、徐々にその質と規模を低下・縮小させていくため、生態系の質と規模、つながり（ネットワーク）の持続性を確保することが課題となっています。

生態系ネットワークの形成とは、生物のための、充分な規模の保護地域を核としながら、生息・生育空間のつながりや適切な配置を確保することといえます。

つまり、生物の生育生息空間として保全していくべき核（コア）となる地域を明らかにし、それらのコア

課題1
愛知県内の生態系ネットワークの形成上、核（コア）となる環境とその位置の把握

1. 県の生態系の概要把握

地形や地質、植生とそこに生息する動物等のデータを整理して、その結果、「奥山」、「里地里山」、「平野」、「湿地・湿原」、「沿岸域」の5つの地域に区分した。

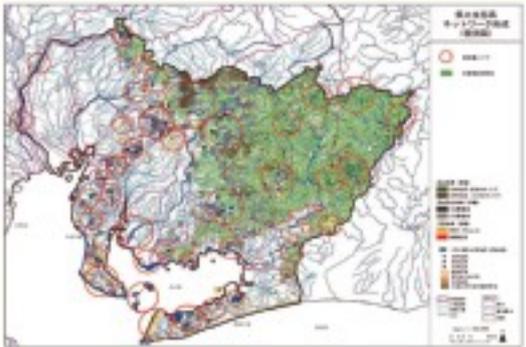
2. 核（コア）となる重要な環境の評価基準

現況生態系の核（コア）となる地域を抽出するため、生態系ネットワークの一般原則を踏まえて、生態系の重要度評価の基準を検討し、以下の5つの基準を設定した。

規模性
環境多様性
特殊性
自然性
集積性

3. 「コア」となる環境の抽出

5つの重要度評価の結果を評価図として示し、その重なりあった高評価エリアを、現況の生態系の「コアエリア」として抽出した。



生態系ネットワーク現況図

課題2
生態系の持続性が脅かされている環境の把握

1. 生態系の持続性評価

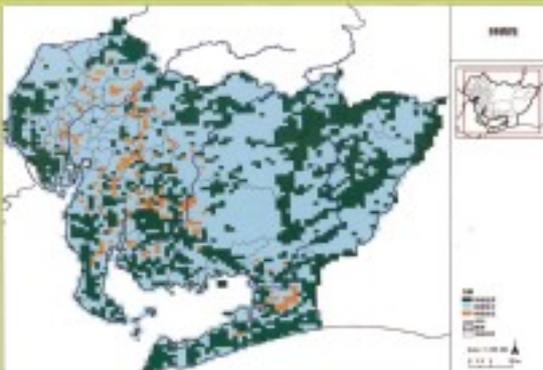
持続性評価は、生態系が今後も維持される可能性（維持性）の高さと、法制度による保全措置の効果（担保性）の高さによって評価した。

表1 持続性評価の考え方

		維持性	
		高	低
担保性	高	持続性「高」	
	中		持続性「中」
	低		持続性「低」

2. 生態系の持続性評価の低い環境の抽出

評価の結果、持続性評価図に示した、平野地域の市街地と里地里山地域の境界部及び一部の里地里山の内部が、持続性の低い地域として、オレンジ色で示された。



持続性評価図

作品概要

作品名：広域レベルの生態系ネットワークの形成に向けた空間計画検討—生態系ネットワーク形成検討調査業務—
 対象地：愛知県
 発注：愛知県環境部自然環境課
 事業目的：愛知県内の現況生態系の分析結果に基づいて、県全体という広域レベルの、生態系ネットワークの形成方針を明らかにすること。
 事業体制：石川幹子氏を座長とする学識経験者等7名からなる検討会より、アドバイスを受けながら検討を実施。
 事業期間：平成19年6月～平成20年3月
 事業規模：愛知県全体（5164.57 km²）

作品評

本作品は、愛知県全域という広域レベルの生態系ネットワークの形成を進めていくにあたって、県の自然環境の特性を反映した、これからの適切な生態系ネットワークの形成方針を明らかにすることを目的としたものである。
 調査においては、生態系ネットワーク検討委員会を4回開催し、その意見を極力反映したものととなっています。また、GISデータをベースに、愛知県内のビオトープマップを作成し、県内の自然環境の実態を踏まえた上で検討を行っているとともに、県という広域レベルの検討ながらも、生態系ネットワークの構成要素をしっかりと取り入れながら、検討を進めている点は高く評価できる。
 検討委員会等の調整も含め、内容の濃い広域レベルの調査検討を、ていねいに、かつ、わかりやすく取りまとめている点が評価された。また、里山環境や都市部の環境の価値を抽出するための「環境の多様性」「特殊性」「集積性」といった新しい環境軸による評価や、生態系ネットワーク維持が脅かされる可能性の高いエリアを抽出するために「持続性」の評価軸を取り入れている点も、大きな特色として評価された。

エリアとコアエリアの間の分断を防止、あるいは分断されている環境の適切な再生、空間的つながりの形成を推進することです。

具体的には、生態系の空間的つながりを確保する視点を盛り込んだ土地利用計画の策定や、さまざまな人間活動において生物の生息・生育空間や移動空間の保全、創出に配慮していくことであると位置づけられます。

そこで、愛知県という広域レベルの空間計画において、県の自然環境の特性を反映した、将来に向けた適切な生態系ネットワークの形成方針を明らかにするため、「1. コアとなる環境の把握」「2. 生態系の持続性が脅かされている環境の把握」「3. 生態系のネットワーク形成方針の検討」という、3つの課題に取り組みながら検討を進め、生態系ネットワーク形成のイメージ図を提案しました。

課題3：愛知県における生態系のネットワーク形成方針の検討

- 1. 県土コアエリアの範囲と単位としての流域**
 課題1で抽出した「高評価エリア」を基本に、このエリアを含む小流域を単位とした範囲を、生態系のつながりが密接であると判断できる最小単位と考え、これを「県土コアエリア」として抽出した。
- 2. 県土コアエリアの特徴と保全方針**
 県土コアエリアの保全方針は、基本的に現状環境の維持・保全を図るとともに、更なる環境の質の向上を図ることを目指していくものとした。
 表2 各地域区分のコアエリアの特徴
- 3. 県土生態系ネットワーク軸の設定と保全方針**
 現状、特に里地里山のコアを結ぶ回廊地域（コリドー）である樹林地や農地、河川等の環境は、生態系ネットワークの持続性が低い地域でもあるため、これを「ネットワーク軸」として設定し、将来的に適切な再生や空間的つながりの形成に力を入れていく地域として抽出した。
- 4. 県土の基盤環境の設定と保全方針**
 県土の基盤環境は、一つは奥山から里地里山に広がる大規模な人工林を主体とした森林：「骨格緑地」であり、これの連続性と規模の確保に努める。二つ目は平野地域に広がる「農地（水田・畑等）」であることから、これらの地域で生態系の質の向上に努めることとした。
- 5. 生態系ネットワーク形成のイメージ図作成**
 愛知県の生態系ネットワークの形成の推進方針を、イメージ図として以下のようにまとめた。広域レベルである愛知県の県土生態系ネットワークの構成は、生態系ネットワークの構成要素である、コア、コリドー、マトリックスの3要素に対して、「県土コアエリア」と「県土生態系ネットワーク軸」及びそれらを支える「県土の基盤環境」という名称で表現した。

地域区分	コアエリアの特徴
奥山地域	すでに自然公園等として担保もされている、自然性が高く、規模も大きな森林環境等。
里地里山地域	環境の多様性が高く、湿地やため池等の特殊な環境が集中した地域。
平野地域	自然性が高い湿性草原や、集積性の高い樹林地の一群の環境。大規模な公園等、県レベルとしては小規模な都市拠点もコアエリアとして抽出。
沿岸域	自然海岸や藻場、干潟等の環境を中心とした地域

生態系ネットワーク形成のイメージ図



鹿児島市景観計画

株式会社アーバンデザインコンサルタント 大杉哲哉・十時 裕・矢鋪雅史

□市民とともにつくる地域の景観特性にふさわしいルール

鹿児島市の景観は、豊かな自然や歴史、特徴的な文化、優れた眺望等によって形づくられており、後世に継承していく大切な資源であるとともに、まちづくりの一役を担う重要な要素です。鹿児島市は景観法の施行を機に、平成19年度に景観法に基づく全市域を対象とする景観計画を策定しました。

策定にあたって、鹿児島の個性を活かした景観形成を考えていくため、公募の市民と行政で構成される「かごしま市景観づくり会議」を開催しました。「かごしま市景観づくり会議」は、ワークショップ手法を用いて、

市民にとって大事な景観の抽出とその景観を保全・形成していくための景観形成基準の基本的考え方を、現地確認やシミュレーションなどを行いながら検討しました。

会議の進行に当たっては、市民と行政の橋渡しとしてのワークショップのファシリテート役として景観形成に関する情報提供や市民と行政の間の中立的な立場で、検討の場を進行しました。

□鹿児島らしさを創出する景観誘導

城山展望台などからの錦江湾に浮かぶ桜島への眺望、磯地区の歴史景観、錦江湾・桜島からみて斜面緑地を背景とする市街地景観に代表される、鹿児島らし



「～錦江湾に浮かぶ桜島，薩摩の歴史を感じるまちなみ～鹿児島島の風土や歴史に培われた地域資源が醸し出す景観」
鹿児島市景観計画表紙写真より

作品概要

作品名：鹿児島市景観計画
 対象地：鹿児島市全域
 発注：鹿児島市都市計画課
 協働・検討の体制：「かごしま市景観づくり会議（ワークショップ）」「鹿児島市景観まちづくり委員会」
 調査・計画：株式会社アーバンデザインコンサルタント
 事業概要：市民との協働による景観法にもとづく景観計画の策定
 事業期間：平成18年度：平成18年4月28日～平成19年3月26日
 平成19年度：平成19年4月6日～平成20年2月15日

作品評

本作品は、鹿児島市における、景観法に基づく景観計画を、2カ年間で検討し策定した業務の成果にあたる。景観法制定から5年半が経過した現在、法定景観計画は全国レベルで普及してきたが、ややもすれば画一的な計画になりがちな面も否めず、とくに今後は、地域の特性を捉えた、地域の独自性を発信できる計画策定が課題となってきている。そのような中、本作品は、「鹿児島らしい景観形成」のための推進戦略を、公募市民からなる「景観づくり会議」での4回にわたるワークショップによる成果の積み上げによって導き出すことに注力し、文字通り「鹿児島らしい」計画としてわかりやすくまとめあげることに、成功した。とくに、鹿児島島のシンボルである「桜島からの眺望」を保持するため、眺望確保のための建物高さの定量的基準を設定している点が、大きな特徴となっており、定量的な眺望規制は、すでに10程度の前例があるが、景観計画に位置づけるまでには、関係機関との調整や合意形成に多大な困難を伴ったものと推察される。それらの努力も含め、総合的な技術力が発揮された優れた作品として評価された。

い景観、「～錦江湾に浮かぶ桜島、薩摩の歴史を感じるまちなみ～鹿児島島の風土や歴史に培われた地域資源が醸し出す景観」を実現するために、地域特性に応じた区分ごとに景観形成基準を設定しました。

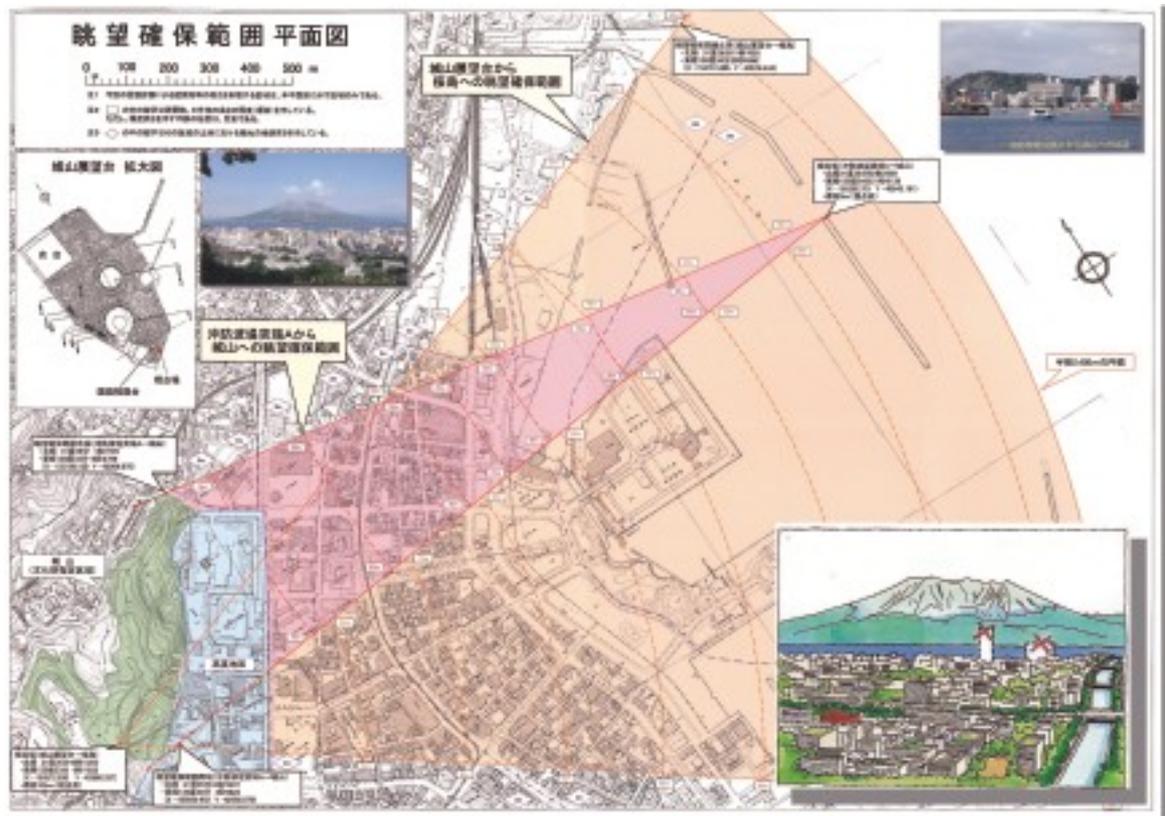
さらに、景観形成上影響の大きい「高さ」および「色彩」の項目については、定量的な基準を設定し、客観

的な誘導が可能とすることで、鹿児島らしい景観の保全・形成を図ることとしました。

「高さ」については、景観計画の運用を円滑に進めるため、シミュレーションによる見え方の検討、視点場および眺望確保範囲を測量で確定するとともに、高さを算出するための計算式も示しました。



かごしま市景観づくり会議の様子：4回のワークショップを開催し、景観形成の基本的な考え方を明らかにしていきました。



景観計画の運用を円滑にする眺望確保範囲平面図

特別賞 賞 CLA 2009

浜松モザイカルチャー世界博2009

中央コンサルタンツ株式会社 三浦利夫・西川裕之・木村 光・小名紀寿

□ 整備の概要

本作品は、2009年9月19日から2009年11月23日までの66日間、浜松市で開催された「モザイカルチャー世界博2009」の会場整備計画・設計・監理である。「人と自然のシンフォニー」をテーマに、会場となったはままつフラワーパークの地形や樹林等の自然環境、温室や花壇等の既存施設を活かしながら、来場者に感動と驚きを与える博覧会を演出するため、会場の基本計画、作品展示および会場修景計画のほか、施設、建築、給水・電気設備に関する設計を行った。

□ 設計のポイント

【展示作品計画】

- ・会場をテーマ別に3ゾーンに分け、テーマカラーやテーマ植栽を設定し、作品を彩る花壇、作品の連続性に配慮した効果的な演出を行った。
- ・噴水池、日本庭園、花壇、修景木、緑豊かな樹林地等の既存施設を有効に活用するため、現地で90作品の位置をプロットし、既存の地形や樹木との取り合い、作品間の離隔、園路からの見え方等を検討した。

【施設、建築、給水・電気設備設計】

- ・豊かな自然環境と起伏に富んだ地形であるフラワーパークを会場とするため、大規模な造成や樹木の伐採を避けて、園路、広場計画を設定した。そ



ゾーンごとのテーマに合わせて作品を配置し、花や低木による彩りを演出した

作品概要

作品名：浜松モザイクカルチャー世界博2009
 所在地：浜松市西区館山寺町地内 はままつフラワーパーク内
 発注：財団法人浜松観光コンベンションビューロー
 浜松モザイクカルチャー世界博2009推進本部
 会場計画プロデューサー：千葉大学田代順孝教授
 設計：中央コンサルタンツ株式会社
 設計協力：株式会社戸田芳樹風景計画
 監理：中央コンサルタンツ株式会社
 施工：須山建設株式会社、日管株式会社、松川電気株式会社
 設計期間：2008年7月～2009年3月
 施工期間：2009年4月～2009年9月
 規模：約29 ha
 主要施設：モザイクカルチャー作品展示計画、会場修景計画（修景花壇、サイン、ライトアップ等）、建築設計（本部棟、総合案内所、野外ステージ等）、設備設計（受変電設備、受水槽等）

作品評

浜松モザイクカルチャー世界博2009は、3年に1度開催されるコンベ形式の国際イベントであり、日本では初めて開催され、66日間の期間中、目標の80万人を上回る86万人の入場者を迎え、閉会した。
 本作品は、「人と自然のシンフォニー」をテーマに開催された浜松モザイクカルチャー世界博2009における、会場の作品展示計画、会場修景計画、植栽設計、既存施設改修、建築・設備設計である。
 既存公園を利用した会場整備のため、既存施設・地形・樹林に配慮しながら会場の整備を行うこと、会期後も施設の有効利用が図れる整備が求められたこと等、制約要素が大きかったことが想像されるが、会場設営の検討を緻密に積み上げたことがこのような国際イベントを成功に導いたものと考えられる。

のため、来場者の多い休日には、主園路の一方通行化を図る等、管理運営計画と併せた整備計画とした。

- 会場のフラワーパークは供用後30年が経過し、給水・電気設備や便益施設が老朽化していたので、66日間の会期中、80万人の来場者に対応できる施設とするため、既存の設備を活用しつつ、施設の改築・更新を計画した。また、会期後、整備した施設の有効利用に配慮し、施設の一部は仮設施設で対応する計画とした。

【会場修景計画】

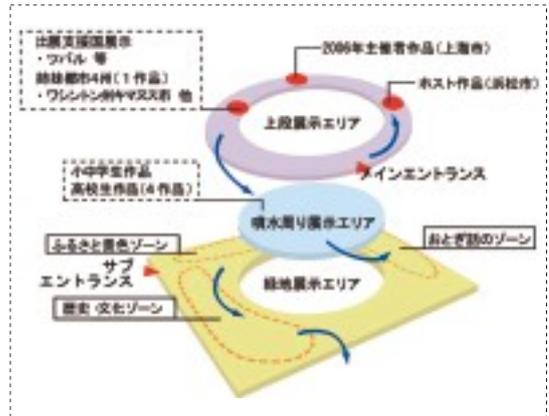
- 会場内のサインは、浜松市内の間伐材を活用し、シンプルなデザインで統一し、会場内に配置・計画した。
- 博覧会としての祝祭性（ハレ）を演出するため、カラフルな布地を用いたスクリーンウォール、ゲートウォールを設置するとともに、作品のライトアップを計画した。



モザイクカルチャー作品（浜松市）



流れに沿って設けた園路



作品のテーマグルーピング空間の設定



各種イベントに対応する野外ステージ



作品を彩る修景花壇



間伐材を利用したプランター



来場者を出迎えるゲートウォール



ハレの演出をするスクリーンウォール（夜間ライトアップ）



案内サイン

特別賞 賞

第26回全国都市緑化おかやまフェア会場計画

株式会社ヘッズ 林 広一・杉浦 守・松本将司・加藤 修

おかやまフェアの会場計画においては、来場者の満足度を高め、リピーターを増加させるために、さまざまな空間づくりのアイデアを組み込むことを試みている。入り組んだゾーニングと動線計画、遠近感を要所で演出するランドスケープ技法は狭小な会場を現実以上に広く感じさせ、また来場者の好奇心を刺激する花と緑と装置が作り出す空間の仕掛けは来場者の満足度を高めるとともに滞在時間を伸ばす効果を果たし、日々変化成長していく植物は見飽きることの無い期待感を常に来場者に与えるものとなった。

計画では、会場を大きく4つのゾーンに分類し、ゾーンのテーマを表現する基盤景観づくりにより、会場を巡る中で風景の移り変わりを楽しめる演出を行った。自然とのふれあいを大切にした新しい時代の「エコライフ」を提案する《新世紀緑のまち》ゾーン、花や緑にあふれる豊かな街並みと生活を楽しむ・体験できる《花暮らしのまち》ゾーン、《キッズガーデン》ゾーン、「おかやま」ならではの特徴ある庭づくりを提案

する《自然の恵みガーデン》ゾーンである。

各ゾーンの特徴を活かし、さらに魅力的にするために、会場のランドスケープ計画においては、以下の点に留意して計画を行った。

- ・会場が一望できない空間構成と大小空間の組合せによるシーン展開を図る。
- ・見え隠れ、生けどり等の庭園にみられる空間演出手法を駆使し、観覧者の期待感を高める。
- ・狭小な会場に対応し、空間のリバーシブル利用を図る。
- ・植栽演出においては、会期を通じた時系列演出の工夫を図る。

「第26回全国都市緑化おかやまフェア」は、全会場で91.9万人、メイン会場では38.6万人の来場者を迎え66日間の会期を終えた。公式記録のアンケート結果によると、来場者の1/3がリピーターであり、滞在時間は2時間以上が59.0%を占めていた。



都市の緑化や花と緑に関わる取組みをモチーフにした政令指定都市出展 アーバンフォレスト：緑の壁〔花暮らしのまち〕

作品概要

作品名：第26回全国都市緑化おかやまフェア会場計画
 対象地：岡山市東区西大寺南1（カネボウ綿糸工場跡地）
 発注者：第26回全国都市緑化おかやまフェア実行委員会
 事業目的：「第26回全国都市緑化おかやまフェア」について、会場設計、屋外展示出展および植物調達管理実施計画の策定を目的とする。
 事業体制：屋外展示出展および植物調達実施計画を株式会社グリーンダイナミクスと協働しつつ、株式会社ヘッズは会場設計を中心に、実行委員会事務局のパートナーとして、他業務との調整や事業進行管理にも積極的に参加した。
 協働者等：株式会社グリーンダイナミクス
 事業期間：平成19年6月18日～平成20年3月31日
 （フェア期間：平成21年3月20日～平成21年5月24日）
 事業規模：約8ha

作品評

本作品は、全国都市緑化おかやまフェアの会場計画および屋外展示出展・植物調達管理の実施計画である。会場計画、植物調達計画など全般的にきめ細やかな実施計画を策定し、フェアの開催を円滑に進めるにふさわしい内容となっている。
 会場計画では、岡山の地域的な特色を演出するため、各ゾーンや広場のネーミングをはじめ、展示の舞台づくりに工夫がみられた。また、静と動、主と脇の空間構成や狭小な会場を広く見せるため、シークエンスの変化と連続性を上手く組み合わせた動線設定など、会場の特性を十分把握した空間演出力は高く評価される。
 一方、全体として網羅的で無難なテーマ設定となっており、とくに今の時代に問題提起をするような鋭い企画や新たな試みに乏しい点が惜しまれる。
 コンテスト実施計画・植物調達計画については、いずれも細かな点にまで配慮した内容となっており、イメージ図等を効果的に使用し、完成イメージを視覚的に想定できるものとなっている。



自然とのふれあいを大切にした新しい時代の「エコライフ」を提案する環境をテーマにし、企業・団体などが「環の杜」「スロライフの杜」といったテーマを持った自然空間の中で個性溢れるガーデンを提案する〈新世紀緑のまち〉ゾーン



花や緑にあふれる豊かな街並みと生活を楽しみ・体験できるゾーン。企業・団体などが「人々の交流」「くつろぎ」など、「花と緑を身近に感じられる都市やまちの中のガーデン」を提案する〈花暮らしのまち〉ゾーン



一面に広がる麦畑の中にミステリーサークルのように遊べる仕掛けや高校・大学などによる出展の庭などが配置される〈キッズガーデン〉ゾーン、果樹や果実に焦点をあわせ、「おかやま」ならではの特徴ある庭づくりを提案する〈自然の恵みガーデン〉ゾーン

奨励賞

秋吉台自然動物公園サファリランド「キッズサファリ」

株式会社ブレック研究所 重松博美・玉井邦治・木寺由香葉

□ 「動物になってみよう！」をテーマとした広場

秋吉台自然動物公園サファリランドは、秋芳洞に代表される秋吉台国定公園内に位置する中国地方唯一のサファリ型動物園である。

そのリニューアル第1弾となるキッズサファリでは、「動物になってみよう！」をテーマに、これまでにない新たな魅力づけを行うことを提案した。

そして、動物が生息している環境の様子やそこで暮らすためのさまざまな能力を、その動物になったつもりで遊びながら学ぶことができる「環境体感型遊具」、ミニアキアットやプレーリードックなどの「動物展示」、さまざまな動物と直に接することができる「ふれあい空間」など動物たちと友達になるためのさまざまな舞台

が融合する「環境体感型遊具広場」の実現を目指した。

□ 動物たちの特殊能力に感動

キッズサファリでは計画地の地形の高低差等を活用して全体を森・草原・湖沼の3つの環境エリアに区分し、それらを関連づけ水が生命の源となっていることを象徴する流れを設けた。そして、そこに暮らす動物の特徴的な行動や、特殊能力を遊びながら実体験することによって、見るだけではわからない動物たちのすごさに感動を覚える施設とした。

□ 森エリア

森で育まれた水が滝となって流れ落ち、キッズサファリを貫く流れとなるその源流をイメージする空間を展開した。ここでは、森に生息する動物としてフクロ



ジャブジャブ池のほとりでは手押しポンプで実物大のアフリカゾウの鼻から水を噴出して遊べる

作品概要

作品名：秋吉台自然動物公園サファリランド
「キッズサファリ」
所在地：山口県美祢市美東町赤1212
発注：田中金属株式会社
設計：株式会社ブレック研究所
設計協力：有限会社ケン設備設計事務所
監理：株式会社ブレック研究所（森エリアを除く）
施工：高山産業株式会社、山陽建設工業株式会社、有限会社ヤマナカ建工、株式会社アトリエ・ティーエムバーガー、内田工業株式会社 ほか
設計期間：平成20年4月～平成20年10月
施工期間：平成20年11月～平成21年4月
規模：約4,300m²
主要施設：
森エリア（おさるになってぶらぶら、トラのかくれんぼ 等）
草原エリア（コビエクライミング、スピードくらべ 等）
湖沼エリア（ゾウの水鉄砲、いのちの水（ジャブジャブ池）等）

作品評

本作品は、山口県の秋吉台国定公園内に位置する秋吉台自然動物公園サファリランドの全体の再整備の一部分であり、民間の施設のリニューアルにおいて質の高い空間を形成したことが注目された。また、「動物になってみよう！（動物の行動や特殊能力を体験）」というテーマのもとに、動物が生息している環境の様子やそこで暮らすためのさまざまな能力を、子供たちが遊びながら学ぶことのできる遊具と動物展示との融合を図った「環境体感型遊具広場」の形成という提案にも、オリジナリティや情報発信性が感じられ、高く評価された。

本作品の特徴である「環境体感型遊具」の設計においても、子供たちが遊びながら、また、楽しみながら野生の動物の生態や身体能力を学ぶことができるよう、よく工夫されたものとなっている。さらには、これらの遊具が空間全体と調和しながら、楽しい空間を形成するように、その形状や色彩を設計しており、ランドスケープ空間の形成に対する設計者の意識の高さが表れている。

ウの動物展示のほか、枝渡りをするサル、木にぶら下がった巣をつくるハタオリドリ、優れた視力を持つタカ、顔に集音機能を持つフクロウ等になったつもりで遊べる遊具を配置した。

□草原エリア

流れの側にサバンナの大草原に点在する岩の丘（コピエ）を配し、その周りに動物たちが憩うアフリカのサバンナ草原をイメージした空間を展開した。ここでは、草原に生息するプレーリードックやコピエをなわ

ばりとするミーアキャット等の動物展示のほか、さまざまな動物たちの走る速さや跳ぶ距離を遊びながら体感できる遊具を配置した。

□湖沼エリア

最後に流れの水が集まる場所は、動物たちも集う場所とし、生命の源である水の大切さを伝える「いのちの水」をイメージした空間を展開した。ここでは、ジャブジャブ池にゾウを配し、手押しポンプで鼻から水を噴出して遊ぶことができるようにした。



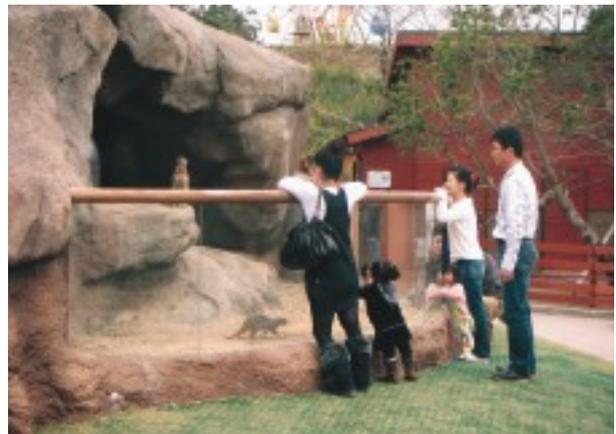
おさるになってぶらぶら（サルの枝渡りを体感）



コビエクライミング（サバンナの岩の丘を模した遊具）



スピードくらべ（様々な動物の走る速さを体感）



コビエクライミングのミーアキャットの動物展示



「花畑公園：パークで筋トレ」

株式会社シビックデザイン研究所 出来正典・岩佐英史・出来佳奈子・西村繁孝

□事業背景

- 本格的な高齢社会，生活習慣病の増大で医療費が増大
 - ⇒元氣な高齢者を増やし，介護予防の推進と医療費の削減に寄与する公園づくり
- 外遊びの減少で子どもの基礎体力の低下
 - ⇒のびのびと外遊びが楽しめ，体力向上につながる魅力ある公園づくり

□計画テーマ

「行政と地域が支える健康づくりーパークで筋トレを」

高齢者の介護予防や子どもの基礎体力の向上を目的として，高齢者の健康づくりや運動習慣につながる健康広場と遊びの価値に着目した安全で楽しい遊び場のリノベーションである。心身の健康づくりと元氣な高齢者を増やし，その結果として介護予防や医療費削減に寄与する公園整備をめざし，公園を拠点に周辺地域への展開を期待したものである。

作品概要

作品名：「花畑公園：パークで筋トレ」
 所在地：東京都足立区花畑 4-40-1
 発注：足立区
 設計：株式会社シビックデザイン研究所
 設計期間：平成19年10月16日～平成20年3月25日
 規模：1.20 ha（公園全体2.16 ha）
 主要施設：健康広場・ウォーキングコース・フィットネス健康器具，幼児用・児童用遊び場，バリアフリー対応トイレ，休憩広場 など

作品評

本作品は，少子高齢化社会に向けた「高齢者の介護予防と子育て支援」をテーマに公園部局以外の他分局の抱える課題に対して公園がその解決に向けた可能性を持つ事を示したプロジェクトである。
 本作品はハード整備にかたよるこれまでの同種プロジェクトに対して，運営母体との計画段階からの連携を重視し，「健康づくり」という事業効果を明らかにしようとしたプロジェクトであり，ランドスケープコンサルタントのこれからのあるべき姿を具現化した好事例である。
 惜しむらくは，スポーツ振興課などとの連携に関する詳細が応募資料から読み取りにくかった。また，施設配置の考え方などについての具体的な記述が示されていなかった点も惜しまれた。



公園での活動風景（健康指導員のもと，皆さん健康づくりに励んでいます）

奨励賞

大野城市ふるさと文化財保存整備活用基本計画

株式会社アーバンデザインコンサルタント 棚町修一

本計画は、文化財を取り巻く共通の課題に正面から向き合い、文化財に関わる市民や民間団体、行政機関が連携しながらともに創る「連携による文化財を活かしたまちづくり」を目指し、3つの連携を提案した。

①行政から発信する文化財情報が市民にうまく伝わっていないことに着目し、行政と市民をつなぐ人材(パートナー)の育成・活用を柱とした「地域連携」、②文化財を行政区域の枠を越えて整備し、まちづくりに活かしていく「行政連携」、③情報化社会に対応し、情報受発信の拠点となる情報ステーションを設け、市民や関係機関との「情報連携」を提案した。

作品概要

対象地：福岡県大野城市全域
 発注：福岡県大野城市 教育委員会 ふるさと文化財課
 事業目的：未知のものも含めて、大野城市に存するすべての文化財について、今後の調査・保存・活用・整備をどのように進めるかの計画を策定することを目的とした。
 事業体制：一般市民、小学生・中学生を対象にしたアンケートや市内で活動する5団体にヒヤリングを踏まえ、大野城市教育委員会のもとで保存整備活用基本計画を策定した。
 事業期間：平成19年9月10日～平成21年3月30日
 事業規模：大野城市全域

作品評

本作品は、市の教育委員会から発注された、市全域を対象とした文化財の保存と活用の基本的な方向性をとりまとめたものである。

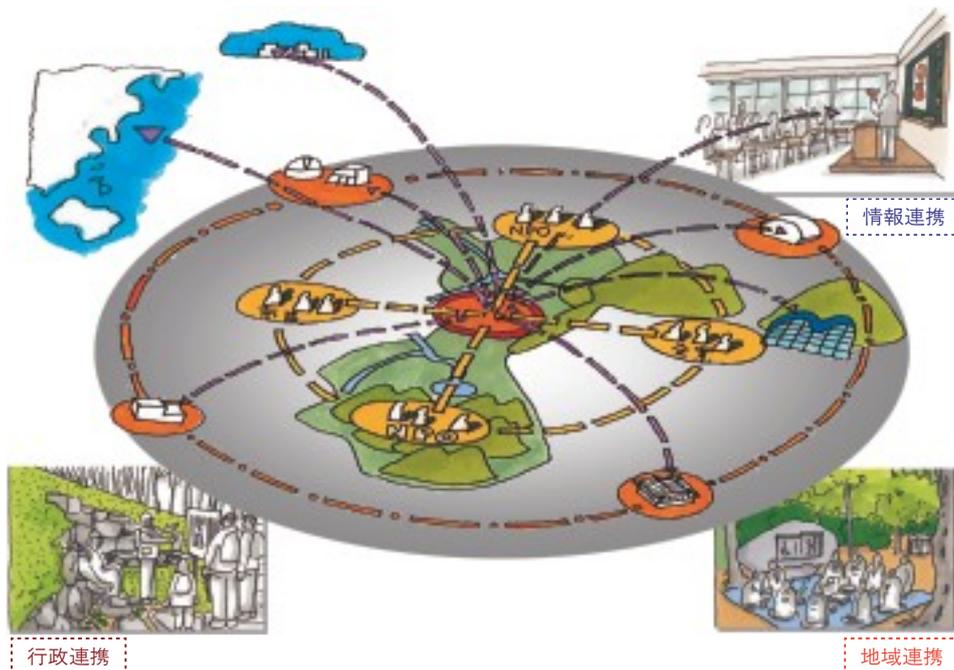
「連携による文化財を活かしたまちづくり」を理念とし、「文化財を知る、守る、活かす」を基本方針の柱として、それぞれの柱ごとに計画の目標や個別計画、推進方策等を簡潔に取りまとめであり、現況調査や課題の抽出に当たっては、市民へのアンケート調査やNPO等の民間団体へのヒヤリング等を行い、市民の意向を反映させた計画となっていることが特徴であり、文化財とまちづくりという新たなテーマに対して「連携」というキーワードを用いて、わかりやすく体系的にとりまとめたことも大きな特徴といえる。

惜しむらくは、「文化財を活かす」という柱において、まちづくりにつながる具体的な提案がプラスされると、さらに充実した計画になったものと考えられる。

とはいえ、限られた委託業務費に対しては十分な内容であり、とくに、基本理念から個別計画までをスケッチを多用して市民にもわかりやすく、ていねいに表現されている点などは高く評価された。

連携による文化財を活かしたまちづくり

地域連携	行政連携	情報連携
市民や民間団体と行政との連携	文化財に関わる関係機関との連携	各種情報媒体を通じての連携





板付ドリチャン倶楽部～「身近なまちなか、まちかどのランドスケープ」創造の試み

株式会社アーバンデザインコンサルタント 堤 八恵子

「利用されない・危険」といった公園へのマイナス評価に対し、経済や農業、エネルギー分野など、既存制度を超えた利用で豊かな暮らしに貢献できればと「公園前食堂チェーン」を考えた。公園に隣接して、地域・家庭を対象にしたリーズナブルで安心・安全・快適な場所と生活サービスを提供する民間コミュニティセンターのような施設を設置し、公園を活用しながら公園を維持管理するビジネスである。本作品はそのアイデアおよび当社が事業研究・社員研修・社会貢献として約2年半、「板付ドリチャン倶楽部」の名称で試行した「カルチャー教室&地域イベント広場」事業である。園芸教室やフラワーマーケットなど造園業界に関わる教室や事業から始め、押し花や気功など40種類近くの各種教室、毎月1回のフリーマーケット開催ほか、環境問題に関心が高い若い母親たちの活動・イベントを支援した。

作品概要

対象地：福岡市博多区板付
 事業目的：事業研究・社員研修および当社の社会貢献
 事業体制：一般市民，地域のご婦人方，大学との連携
 事業期間：平成18年6月～平成20年10月
 事業規模：福岡市博多区一円

作品評

新規事業のアイデアの中から生まれた事業研究・社員研究として試行された事業である点がユニークであり、今後ランドスケープコンサルタントが何を指すのか、という点で新たな可能性を感じさせてくれたことが評価された。
 コンサルタントの構成員が地域の人々と対峙し、活動を広げていくことの困難さ、地域の人々に対する当初予測と現実の違い等、コンサルタントの構成員が地域住民とどのように関わっていくべきなのかという2年半の貴重な実地検証が行われたものであり、これらの活動成果をきちんと記録・検証・評価したうえで、今後の新たな活動にチャレンジしていただくことを期待したい。



板付ドリチャン倶楽部



語りい喫茶



環境学習



カルチャー教室



園芸教室



餅つき大会



ミュージックナイト



フリーマーケット



花屋さん



CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA 賞の趣旨



CLA 技術委員会委員長 枝吉 茂種

ランドスケープコンサルタンツ協会賞 (CLA 賞) は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介し、協会全体の発展に寄与していくことを目的として設けられたものである。

この賞は、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが、会員の行ったランドスケープのプロの仕事から自ら真摯に評価し、優秀なものを選定するというシステムに特徴がある。プロがプロを手前味噌にならずに評価するというのは、言うは易いが実施はなかなか困難である。CLA 賞は30年近くもこの趣旨を継続しており、さまざまな顕彰制度の中で、稀有な存在と評価されている。これもひとえに会員各位の情熱と、選考委員や技術委員会委員の熱意にささえられていることであり、担当者として深く感謝する次第である。

募集・選考のあらまし

今回から、受賞作品を早く公表したいという要望と、一般部とテーマ部の区別が付きにくく作品を出しにくいという会員の意見を取り入れ、一般部の「設計部門」「調査・計画部門」「表現・活動部門」及び「テーマ部門」の4部門に整理統合した。また、この統合により各社から応募できる作品数の上限が減ってしまうことを防ぐため、各部門へ応募できる作品数の上限を一部1点から2点へと変更した。

今年のテーマは『身近なまちなか、まちかどのランドスケープ』とし、街角広場や緑道、公開空地、街区公園など小規模ながら質の高いランドスケープを創出したコンサルテーションとし、CLA 賞の募集要綱に基づき、2009年10月26日を応募期限として作品等を募集し、その後選考委員会を開催し CLA 賞を決定した。

作品の応募と選考結果

今年は、「表現・活動部門」への応募作品がなく、応募作品数は18作品と例年より少ない作品数であったが、「設計部門」に9点、「調査・計画部門」に5点、「テーマ部門」に4点の応募があり、最優秀賞：2点、優秀賞：4点、奨励賞：4点、特別賞：2点の計12点の作品が受賞となった。

部門	応募数	最優秀賞	優秀賞	奨励賞	特別賞
設計	9点	1点	2点	2点	1点
調査・計画	5点	1点	2点	1点	1点
テーマ	4点	該当なし	該当なし	1点	該当なし

選考委員会

選考委員会は CLA 会員の技術者だけでなく、学識経験者、造園関連団体の方々にも参加いただき、客観的な視点も加味して選考に当たられるように人選を行った。選考委員会の名簿は以下のとおりである。

1. 設計部門 (50音順)

委員長 金清典広 (会員/高野ランドスケーププランニング(株))

委員 佐藤四郎 (理事/株日比谷アメニス)

〃 手塚一雅 (会員/株森緑地設計事務所)

〃 名取重広 (会員/株空間創研)

〃 藤江哲也 (会員/株三菱地所設計)

〃 丸山英幸 (会員/株愛植物設計事務所)

〃 福留正雄 (技術委員/株へッズ)

2. 調査・計画部門 (50音順)

委員長 石井ちはる (会員/株総合設計研究所)

委員 住吉泰男 (理事/財東京都公園協会)

〃 菊谷 隆 (会員/株オオバ)

〃 武林晃司 (会員/株緑景)

〃 前澤洋一 (技術委員/株プレック研究所)

3. 表現・活動部門 (50音順)

委員長 村岡政子 (理事/株ライフ計画事務所)

委員 松本 守 (理事/株フジテレビジョン)

〃 杉井昌勝 (会員/株環境設計(株))

〃 柏原信幸 (会員/株ポリテック・エイディディ)

〃 萩野一彦 (技術委員/株オオバ)

*肩書きは選考委員会開催当時

2010年 CLA賞 受賞技術者プロフィール

佐々木宏二 (ささきこうじ)

信州大学農学部森林工学科卒業。技術士。
主な業務：国際花と緑の博覧会「花の谷」(1990)、香里団地環境資産調査(1992)ウッディタウンゆりのき台公園(1994)、天王寺動物園サバンナゾーン(1996～)天王寺動物園アジアの森(1998)国営明石海峡公園神戸地区実施基本計画(2005)国営平城宮跡歴史公園基本計画(2009)



名取重広 (なとりしげひろ)

受賞した業務は、動物園設計の難しさ、厳しさ、楽しさを知るとともに、現在に至る動物園設計のきっかけになりました。関係者の皆様に感謝しています。
主な業務：天王寺動物園アジアの森(ゾウ舎)設計、名古屋市東山動物園改修設計、京都市動物園チンパンジー舎改修設計他。技術士(総合技術監理部門・建設部門)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)



安田卓宏 (やすだたかひろ)

1969年大阪府生まれ。1992年株式会社空間創研入社。計画・設計から管理運営を通じて、植物と土地の特性を生かし、人の思いに残る楽しく心地よい空間づくりに取り組んでいます。兵庫県立淡路景観園芸学校インストラクター、国営明石海峡公園神戸地区管理運営計画及び棚田ゾーン計画・設計。樹木医、公園管理運営士。



奥川良介 (おくがわりょうすけ)

1973年兵庫県生まれ。大阪芸術大学芸術学部環境計画学科卒業。株式会社空間創研勤務。動物園デザイン、集合住宅や河川等の環境整備に携わる。最近では、都市再生における地域や大学と連携したまちづくり事業や、車線減少の社会実験等に関わる。ランドスケープが歴史を紡ぐ一助となるよう取り組みます。技術士(建設部門・都市及び地方計画/建設環境)。



田中利彦 (たなかとしひこ)

1962年千葉県生まれ。1985年千葉大学園芸学部環境緑地学科卒業。同年株式会社緑生研究所入社。生物分類技能検定(動物部門・鳥類)1級、環境カウンセラー(市民部門)。生物技術者として、公園緑地をはじめ各地で、野生動植物の調査と保全に取り組んでいます。



伊藤休一 (いとうきゅういち)

大阪府出身。1998年京都大学文学部卒業、2003年兵庫県立淡路景観園芸学校修了後、株式会社緑生研究所入社。野生動植物の生息・生育立地評価や生態的ネットワーク等に関するGIS解析を主に担当。景観の構成要素間のつながりを重視し、つながりが生み出す景観の機能性に着目したプランニングを心掛けている。



木村 弘 (きむらこう)

1938年生まれ。千葉大学園芸学部造園学科卒業。株式会社総合設計研究所を1965年に設立。代表取締役。財団法人日本体育施設協会 常務理事 社団法人園芸文化協会 常務理事 技術士(建設部門)、農学修士 日本造園学会賞受賞、北村賞受賞



石井ちはる (いしいはる)

東京都出身。明治大学農学部農学科卒業後、株式会社総合設計研究所に入社。技術士(建設部門)、CLA広報委員、CLA関東支部広報委員。主な業務は、福岡市アイランドシティ中央公園等の公園計画設計、緑景観評価等の調査研究、仙川等の河川計画と環境調査、団地等のワークショップと屋外計画などです。



富樫 衛 (とがしまる)

1958年山形生まれ。1981年千葉大学園芸学部環境緑地学科卒業。同年、株式会社総合設計研究所入社。公園計画・設計のほか、貴重植物保全、植生回復調査・設計など。



内田 剛 (うちだたけし)

1984年千葉大学園芸学部造園学科卒業、同年、株式会社総合設計研究所入社。環境、公共及び民間施設のランドスケープ等の計画・設計、都市公園の維持管理運営計画策定等に従事。技術士(建設部門：都市及び地方計画)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



志村 勝 (しむらまさる)

1982年千葉大学園芸学部造園学科卒業。同年株式会社総合設計研究所入社。現在CLA1部副部長。受賞作品では北西部水辺ゾーン(水辺の生態系を育む河川空間の創造)を担当。週1回の定例打合せを約1年間続けた経験はこの業務がはじめてで、今思えば懐かしいものになりつつあります。



勝村 実 (かつむらみのる)

東京農業大学卒業後、1982年、株式会社総合設計研究所入社、現在に至る。主な業務は、千葉県立博物館付属生態園、横浜動物の森公園オカビ展示場、チンパンジー展示場設計。日本造園学会賞受賞



武田栄文 (たけだしげひさ)

秋田県出身。1991年、株式会社総合設計研究所入社、現在に至る。主に公園設計、自然環境調査、動物園などのランドスケープに関する屋外計画・設計に従事。



木村泰士 (きむらやすし)

1979年生まれ。神奈川大学卒。2007年株式会社総合設計研究所入社。主な仕事に茅ヶ崎公園平和慰霊塔、桂川ウェルネスパーク利用促進計画、新宿六丁目公園(仮称)基本設計など。



中西広樹 (なかにしひろき)

1983年千葉大学園芸学部造園学科卒業。現在、株式会社ヘッス代表取締役。技術士(都市及び地方計画)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。心地よい屋外空間づくりを目指して幅広く計画設計に携わる。主な業務経歴：国際文化公園都市公園緑地基本設計、第16回全国都市緑化みやざきフェア、飛鳥歴史公園豊浦地区、浜名湖花博会場設計、六甲道南公園など



加藤 修 (かとうおさむ)

株式会社ヘッス取締役東京代表。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)、技術士(建設部門)。1960年宮崎県生まれ。千葉大学造園学科卒業。1996年～2003年千葉大学非常勤講師、1999年～武蔵野美術大学非常勤講師。日本造園学会ランドスケープ建設技術委員長。CLA黒ラプの会会員。主な業務経歴：八王子みなみ野のシティー桧谷戸公園、全国都市緑化みやざきフェア基本構想・会場計画・設計、浜名湖花博主催者庭園計画・設計、アクティビティ滞留など



林 広一 (はやしこういち)

1949年生まれ。1973年3月大阪府立大学卒業。同4月東光園緑化株式会社入社。1983年4月株式会社ヘッス入社。主な業務経歴：大阪花博会場計画連絡調整業務、播磨科学公園都市先端科学技術支援センター外構施設設計、第16回全国都市緑化みやざきフェア会場計画、浜名湖花博会場計画、第26回全国都市緑化おかやまフェア会場設計など



杉浦 守 (すぎうらまもる)

1963年生まれ。1987年4月株式会社ヘッス入社。主な業務経歴：国際花と緑の博覧会街のエリア南実施設計、第16回全国都市緑化宮崎フェア会場設計、フロンテ宮崎修景演出デザイン、浜名湖花博会場計画・会場設計、第26回全国都市緑化おかやまフェア会場設計など



松本将司 (まつもとまさし)

1974年生まれ。1998年3月京都府立大学卒業。同4月株式会社ヘッス入社。主な業務経歴：浜名湖花博「里のエリア」植栽設計・監理、浜名湖花博「修景花壇」植栽設計・監理、ベネッセアートサイト直島ベネッセハウス新館ホテル植栽設計・監理、第26回全国都市緑化おかやまフェア会場設計・監理など



中川有里 (なかがわり)

1968年長野県松本市生まれ。1991年筑波大学第二学群農林学類卒業。同年株式会社ブレック研究所に入社。主に生態系基盤の自然環境調査から環境教育、環境影響評価業務等に従事。技術士(建設部門、環境部門)。ブレック研究所中部事務所次長。



村瀬俊幸 (むらせとしゆき)

1963年愛知県知多市生まれ。1988年筑波大学大学院修士課程環境科学研究科修了。同年株式会社プレック研究所に入社。主に景観調査、環境影響評価業務、行政計画策定業務等に従事。技術士(建設部門)。プレック研究所行政計画部次長。



岩田周子 (いわたしゅうこ)

2007年筑波大学大学院環境科学研究科修了。同年株式会社プレック研究所に入社。主に緑地計画、景観計画、公園の管理運営計画、住民参加型のまちづくり等に従事。プレック研究所都市・地域計画部研究員。



米塚佐世子 (よねづかさよこ)

1976年 愛知県江南市生まれ。1999年 信州大学理学部物質循環学科卒業。2002年 株式会社プレック研究所に入社。主に自然環境調査から環境影響評価、保全対策業務に従事。プレック研究所研究員。



矢舗雅史 (やしきまさふみ)

株式会社アーバンデザインコンサルタント技術営業次長。九州芸術工科大学環境設計学科卒、主な業務に、藤沢市景観基本計画、鎌倉市景観基本計画、大野城市都市計画マスタープラン、鹿児島景観ガイドプラン2006等の計画づくりや佐世保市の景観まちづくりに関わる。住民参加のまちづくりを得意とする会社で、ワークショップ手法使いながら日々の業務に取り組んでいる。



三浦利夫 (みうらとしお)

1959年名古屋生まれ。三重大学大学院生物資源学研究科修了(学術博士)1982年、中央コンサルタンツ株式会社に入社。公園や里山、まちづくり計画に従事。最近は、技術営業で緑の重要性をPRしつつ、委員会・ワークショップ・プロポーザル業務を担当。技術士(建設部門：都市及び地方計画)



西川裕之 (にしかわひろゆき)

1960年名古屋生まれ。1983年金沢大学土木工学科卒業、中央コンサルタンツ株式会社入社。主として水環境業務に従事、上下水道事業や河川海岸・港湾事業、公園整備等の計画・設計・調査・施工管理のほか、最近は施設のリニューアル、アセットマネジメント業務に取り組む。技術士(上下水道部門：下水道)



木村 光 (きむらひかる)

1966年愛知県生まれ。1989年千葉大学造園学科卒業。中央コンサルタンツ株式会社入社。主に中部における公園緑地や駅前広場、街路の景観整備の計画設計に携わる。地域や現地の特性に合った計画、設計に心がけて、業務に励んでいる。技術士(建設部門：都市及び地方計画)



小名紀寿 (おなのりひさ)

1978年奈良県生まれ。2004年信州大学大学院工学系研究科を修了。同年、中央コンサルタンツ株式会社に入社。入社後約3年間、道路設計に関わった後、公園設計に取り組み始め、現在に至る。公園の設計は楽しいが、やればやるほど奥が深いなあと感じている。



重松博美 (しげまつひろみ)

1963年 福岡県福岡市生まれ。1986年 九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。同年株式会社プレック研究所に入社。東京、福岡、横浜、東北の事務所を経て現在中部事務所。主に動植物園や各種都市公園の計画・設計に従事。技術士(建設部門)、一級建築士、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



玉井邦治 (たまいくにはる)

1967年 大阪府吹田市生まれ。1991年 大阪芸術大学芸術学部環境計画設計学科卒業。同年株式会社プレック研究所に入社。主に動植物園や各種都市公園の計画・設計に従事。技術士(建設部門)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。プレック研究所中部事務所部長代理。



木寺由香葉 (きでらゆかは)

1976年福岡県福岡市生まれ。1999年九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。同年株式会社プレック研究所に入社。主に動植物園や各種都市公園の計画・設計に従事。一級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。プレック研究所九州事務所主査。



出来正典 (できまさのり)

1951年鹿児島県生まれ。東京農業大学造園学科卒業。株式会社シビックデザイン研究所代表取締役。技術士(都市及び地方計画)。主な業務：地域特性を活かした公園整備技術に関する検討業務、尺丈山百樹の森整備事業等。主な業務分野：公園緑地・景観整備・まちづくり全般の調査、計画業務。



岩佐英史 (いわさひでふみ)

1955年岐阜県生まれ。株式会社シビックデザイン研究所取締役。東京農業大学造園学科卒業。技術士(都市及び地方計画)。主な業務：壬生町東雲公園、勝どき駅前再開発、港区立芝公園等の基本計画・設計業務。主な業務分野：公園緑地・景観整備・まちづくり全般の計画、設計、監理業務。



出来佳奈子 (できかなこ)

1979年東京都生まれ。東京農業大学造園学科卒業。株式会社シビックデザイン研究所研究員。主な業務：都市公園における遊具の安全確保に関する検討調査、新形式墓地基本計画等。主な業務分野：公園緑地・景観整備・まちづくり全般の調査、計画業務。



西村繁孝 (にしむらしげたか)

1979年滋賀県生まれ。東京農業大学造園学科卒業。株式会社シビックデザイン研究所を経て、現在京都市役所勤務。主な業務：ライフタウン国領、足立区立梅田八丁目公園等の設計業務。主な業務分野：公園緑地・景観整備・まちづくり全般の計画、設計業務



棚町修一 (たなまちしゅういち)

1955年生まれ。九州芸術工科大学環境設計学科卒業。公園緑地計画・設計・監理、文化財関連の計画・設計に携わる。技術士(建設部門：都市及び地方計画、総合技術監理部門)、一級建築士。お客さまの心に染み入る作品づくりを心がけています。



堤八恵子 (つつまやえこ)

1978年九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。大型店販促・区画整理経験後、1985年株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。造園設計、景観・緑・広告物やまちづくりの調査計画を経て経営畑へ。「幸せ思考」をモットーに、都市・地域・NPO・企業等のマネジメント支援などを行っている。技術士(建設部門・総合技術監理部門)。



RLAとは何か、 ランドスケープアーキテクトとは何か。

登録ランドスケープアーキテクト自らが、資格認定試験の解説を通し、
ランドスケープアーキテクトとは何かを浮き彫りにした一冊。
ランドスケープアーキテクトを目指す方に必須・必携！

●主要目次

第1章 ランドスケープアーキテクトとは？

ランドスケープアーキテクトへの誘い
RLA制度創設の頃の思い
ランドスケープアーキテクトという職能
RLAの今後に向けて

[事例]

伝統と現代の交差—朱雀の庭
土地の記憶を生かす—きたまちしましま公園
ワークショップと風景づくり—多摩平の森
建築と緑の仕事—アクロス福岡
21世紀の庭園デザイン—京都迎賓館
自然環境の保全と再生—水元公園水産試験場跡地
まちの背景をつくる—鎌倉市・緑の基本計画
都市活動の演出—品川セントラルガーデン

[コラム ランドスケープアーキテクトへの期待]

風景デザイン (建築家 栗生明)
光の世界からRLAに期待すること (照明デザイナー 面出薫)
「ランドスケープ」とは何か、「アーキテクト」とは何か (土木デザイナー 内藤廣)

第2章 RLA資格制度、資格認定試験

資格制度の性格と位置づけ

試験問題の内容【択一問題編】

択一問題の構成と範囲
専門基礎、計画原論、自然的側面、
歴史・文化・社会的側面、植物・植栽、
ランドスケープ関連施設・材料、造成・排水

試験問題と解法【実技問題編】

実技問題の内容と視点
出題範囲と勉強の仕方
土地利用ダイヤグラム、敷地計画、
造成・排水設計、植栽設計、詳細設計

●本書の特徴

本書は印刷物本編とCD-ROMから構成されています。本編は上記の主要目次のとおりで、第1章では、事例などを多用しつつ、ランドスケープアーキテクトとは何かについて整理しています。第2章では、資格認定試験の過去の出題問題を用いて、その解法や解説を掲載しています。

なお、本書の最大の特徴であるCD-ROMは、本編を凌ぐボリュームで、個々の択一問題の具体的な解説や実技問題の解法や複数の解答例を掲載し、より深く試験問題を理解できるようになっています。ぜひ、ご購入いただきこのCD-ROMをご覧ください。

※CD-ROMは、Windows専用となっていますが、Mac等をご使用の方には、別途、収録データをお送りする準備を整えております



編著：RLAガイドブック出版の会
発行：成隆出版
B5版／約100ページ／白黒・カラー／定価1,900円＋税
(CD-ROM：A4約150ページ相当を収録)

申込書	「ランドスケープアーキテクトになる本」を申し込みます。		冊	【特別価格申込書】 特別価格：¥1,600円(税込 送料無料)
	ご住所			この申込書を使用して発注した場合に限り特別価格で購入できます
	お名前	連絡先		

必要事項をご記入の上、成隆出版 (FAX03-3206-6829, e-mail akutsu@seiryusyuppan.co.jp) まで直接お申込ください

「公園施設長寿命化計画策定補助制度」への取組み

業務委員長 細谷 恒夫
技術委員長 枝吉 茂種

□ 制度の概要

社会資本の一つである都市公園等の整備は、第1次都市公園等整備五カ年計画が始まった昭和47年には、13,534箇所、25,266 haであったが、35年後の平成19年には95,207箇所、113,207haと面積では4.5倍、箇所数では7倍と着実に整備されてきた。

一方、都市公園ストックの高齢化も進み供用中の都市公園の約3割が設置から30年以上経過し、20年後にはこれが約6割に達すると推計され、管理者である自治体財政の好転が見込めない中で「ライフサイクルコストの縮減」を図る観点から、適切な維持管理や更新を計画的・効率的に進めていく重要となってきた。

このような情勢を踏まえ、平成21年3月の閣議決定で、社会資本整備重点計画において、投資の方向性を示す重点目標として「ストック型社会への対応」という分野が設定され、その達成に向け効果的、かつ効率的な事業執行をすることが明確に示された。

これを踏まえ国土交通省では平成21年度から「都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業」および「公園施設長寿命化計画策定補助制度」を新設し、地方公共団体の支援をすることが決定された。

□ CLAの取組み

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会（以下CLA）では「都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業」および「公園施設長寿命化計画策定補助制度」が協会の特技をもって支援できる制度と位置づけ、CLAの業務委員会と技術委員会は(株)日本造園建設業協会、(株)日本公園施設業協会とも連携を図り、21年5月より業務内容と報酬の検討を行った。

21年7月に『都市公園安全・安心対策に関する調査計画（公園施設長寿命化計画と公園再生計画）』とした「標準仕様書（案）」と「標準業務報酬積算ガイドライン（案）」の冊子を作成し、CLA会員に業務受注の機会が増えるよう各自治体に配布した。

また、下記のように支部単位で講習会を開き、事業の内容や「標準仕様書（案）」と「標準業務報酬積算ガイドライン（案）」の説明をCLA業務委員・技術委員が行った。

- ・ 6月19日 北海道支部（参加者会員限定）
- ・ 8月6日 関東支部（参加者会員限定）
- ・ 9月3日 九州支部（会員および自治体）
- ・ 10月6日 関西支部（会員および自治体）
- ・ 11月26日 中部支部（会員および自治体）
- ・ 11月11日 千葉県主催関東支部後援
（千葉県下の自治体参加）

□ 今後の取組み

「公園施設長寿命化計画策定補助制度」は21年度から新設された事業であり、どのような計画が国土交通省に提出され、補助を受けられるかも不透明なところである。また、今回作成した「標準仕様書（案）」と「標準業務報酬積算ガイドライン（案）」は時間的な制約も有り、住区基幹公園を主体としており、今後は、都市基幹公園についても検討する必要がある。

21年度は予算化している自治体も少なく、発注件数が少なかったが、次年度以降は発注件数の増加も見込まれる。これらのデータの蓄積を行い、業務内容と報酬基準の整合性を検討し、「標準仕様書（案）」と「標準業務報酬積算ガイドライン（案）」を適宜修正していくことが必要である。

*

公園施設長寿命化計画にかかるランドスケープ コンサルタントの役割と課題

業務委員 眞鍋 章良

公園施設長寿命化計画の標準仕様を検討する中で感じた計画の広がり、そこで果たすべきランドスケープコンサルタントの役割、課題等について私見を述べる。

□ 計画策定の本質とは？

社会資本の戦略的維持管理に向けた視点は、①安全・安心の確保（機能維持と事故回避）と②コストの縮減と平準化、の大きく2つに絞ることができるかもしれない。

公園施設長寿命化計画について言えば、一つ目にして最大のポイントは（死亡事故等を招く恐れがあるような）特に危険な個所をあぶり出して早急に対応を図ることだろう。極端な言い方をすれば、これ以外は「どこから手をつけるべきか？」という優先順位付けさえできれば良い、と割り切ることも必要だと考える。委託費用が限られているという理由からだけではない。種々の長寿命化対策によるLCC低減効果について、技術的蓄積が不足している現状では、絶対的費用の多寡を論ずることは現実的ではないと思うからである。

そこで二つ目のポイントとして、計画による「維持管理にかかるコスト構造の見える化」が重要になる。効率的な予算執行に向けた意思決定支援ツールとして活用しやすい資料づくりである。

□ 公園の特質とコンサルとしてなすべきこと

ただし「公園の長寿命化」検討は、これらの視点だけでは不十分である。③利用活性化と④地域環境の維持・向上に寄与すること、すなわち個々の施設（要素）の長寿命化にとどまらず、公園全体および地域のネットワークを見据えた中長期的戦略が求められる。

公園設置から長い年月を重ねる中で、地域の自然環境と土地利用、（年齢層も含めて）住民構成等は変化を続けている。当然、求められる水と緑の姿やオープンスペースの機能も変化しており、計画策定においてはこうした状況を意識したうえで、何を变えずに残し、どこをどう転換していくべきかという方向づけが不可欠である。それに呼応して、公園ごとゾーンや施設ごとの目標管理レベルも浮かび上がる。これら一連の検討こそがランドスケープコンサルタントとしての専門性・技術的優位性を生かす部分だろう。

□ LCA や社会的コストを含めた総合的評価

また（予算に応じて検討範囲と精度の調整は必要である

が）施設の劣化等に着目するだけでなく、耐震性などのリスク対応、バリアフリー性能等についても併せて調査・計画を行うことが望まれる。

さらに言えば、CO₂吸収などの環境性能、運営面を含めた経済性、廃棄・更新に伴う環境負荷（CVM、コンジョイント分析等による）歴史性や景観などの社会的コスト評価といった多様な視点を総合したうえで、地域全体としての機能維持・改善に向けた地理的・時間的コスト配分検討が行われるのが理想である。

□ 自然環境も重要なアセット（資産）

適切な管理によって良好な環境が保全され、上記社会的コストを含めた総合的コスト縮減に寄与する……といった評価を待つまでもなく、快適な空間・豊かな環境を提供する基盤として緑と水の役割は大きい。したがって緑地の保全育成、定期的な生物モニタリングや保全対策なども（陸域だけでなく、河川や海浜・干潟等の水質・底質改善や砂浜の保全なども含めて）、公園のストックマネジメントにおいて外せない内容だと考える。

□ 基礎データが不足し評価基準も曖昧

現段階では、施設の劣化予測および劣化状況に応じて有効な改善策を選択するための（施設の延命とLCC低減効果についての）基礎データはほとんど見当たらない。この収集・蓄積に向けて、たとえば、気候条件が異なる複数の自治体がモニターとして協力し、各種のモデル施設について多様な改善手法を試行して継続監視を行う取組み等が考えられる。こうした取組みを通じて、適正な（調査者によるばらつきが少ない）対策実施の優先度評価を行う簡便な手法と基準づくりについても整理が進むと思われる。

□ まとめにかえて

医療になぞらえれば、点検・評価は検査技師による病気の発見・進行状況把握にあたり、計画づくりは医師による治療方針設定と処方にあたるだろう。調べる内容とポイントを上手に見定め、その結果から将来起こりうる健康リスクを予想してその回避を指導するのも医師の役割である。こうした医師としての役割を中心に、多様な技術者と連携して公園のクオリティオブライフを高めるためにCLAメンバーが活躍することを期待したい。

公園施設長寿命化計画標準業務報酬積算 ガイドライン（案）策定について

CLA 北海道支部では、北海道からの要請もあって「公園施設長寿命化計画標準業務報酬積算ガイドライン策定」に取組みました。したがって、本部の最終案である7月版が出る前の6月に説明会を開催いたしました。以下にその経緯をまとめました。

□ 計画策定への序走

平成20年11月21日に道庁からのメールによって、都市公園安全・安心緊急総合支援事業が新設され老朽化した遊具等の公園施設の更新も補助が可能であること、それには公園施設長寿命化計画の策定が必須であることなどを知らされました。しかし、その後、この計画策定について詳しい情報が無いまま年が開けました。しかしその間も道内市町村から支部会員や施設業協会などにも問い合わせがあるとの情報も入りました。

平成21年2月20日に再び道庁からのメールで策定要領（案）が示され、今度は計画策定にいったい、いくらかかるのか、という問題がCLA 道支部に問いかけられました。

当支部ではこの間に答えるべく、標準歩掛り策定委員会を立ち上げ検討に入りました。本部にも相談しましたが、動きは無く、北海道独自で動き始めるしかありませんでした。

4月に入って支部案がまとまりかける頃、本部から中央でも動き始めた、道支部の案を送ってくれ！と要請がありました。

道支部案を送り、本部と質疑応答などを行いました。5月28日の理事会で、本部案がまとまったので、各支部の要請があれば説明会を行うとのこと。早速予算措置をし、本部から狩谷氏を招いて6月19日、説明会を行いました。出席会員10社、17名が参加。主に支部案と本部案の金額の乖離についての質問や予備調査と資料収集・与条件の整理との整合性

2008.11.21：道庁から1通のメールをもらう。

「大変お世話になっております。北海道建設部都市環境課公園緑地G田中です。

来年度から予定の補助制度「公園施設長寿命化計画策定」に関する補助制度の内容を送ります。この計画を策定することで、公園の改修改築が補助対象となる予定です。ただ決定した内容では無いため多少変更はあるものと想定しております。関係コンサルに情報提供願います。」

会員各社にメールを転送。詳しい内容は、国からまだ何も説明が無く、解らないとのこと。当支部としては、補助制度の詳しい情報の提供と計画策定要領の作成をお願いします。

2009.1.9：CLA 事務局、高橋専務に本資料を送り、本件について中央の動きを確認。今のところ特に具体的な情報は無い。今後、気をつけておきます。とのこと。

2009.2.20：また道庁からのメール。

「お世話になっております。北海道建設部都市環境課公園緑地G田中です。

平成21年度からの新施策「長寿命化計画策定」について、国からは詳細内容が示されないまま、期間が経過し、市町およびコンサルの皆様から、「何をどのように策定するのか」とのご意見を多数頂いているところです。道としては、新年度までに期間が無いため、長寿命化計画策定要領の案を作成し、施策の主旨に間違いが無いか国に確認し、間違いなければ別添の内容で計画策定を行いたいと思っております。そこで、実際に調査策定するコンサルの皆様のご意見を頂きたいと考えておりますので、お忙しいところご協力願います。よろしく願いいたします。」

北海道作成、公園施設長寿命化計画策定要領（案）添付される。

ここで初めて、実際に調査策定するのはわれわれなのだ実感する。

2009.2.27：施設業協会も交えて、道庁担当者による説明会を開催。支部としては、この策定要領を元に今後標準歩掛りを策定すべく準備をはじめることとする。

2009.3.4：来道中の国土交通省の望月課長補佐による説明会出席。「公園施設長寿命化計画策定にあたっての留意点等について」が示される。

北海道ではこれを受け、策定要領の修正を行う。

などの質問が出ました。

6月26日に、本部からガイドライン（6月版）が届きますが、同日に道庁や札幌周辺市との説明会を行いました。その席でも高すぎる、との声がありました。お互いに実証経験が無いので高いのか安いのか、いずれも確たる根拠のあるものではありません。

□ 今後への対応

7月17日に最終版（7月版）が届きましたが、北海道では6月版で見積を作成した会員もあり、かなり混乱が生じたようです。遅すぎる全国版作成とあまりにも早い改定だとの批判もありました。また、実際の予定価格や落札価格との乖離も大きく、このガイドラインの有効性に疑問も生じています。これは経験の無い業務を見積もることの難しさ、実証実験なしのぶっつけ本番をした国の責任も大きいものと感じています。しかしながら、今回の経験でCLAの存在意義も感じました。今後も国の施策をきちんと検証し提言できるCLAを目指してもらいたいと思います。（及川）

- 2009. 3 . 9 : 北海道より、公園施設長寿命化計画策定要領修正案が届く。支部では道庁の要請を受け、標準歩掛り作成委員会を立ち上げ、具体的作業に入る。
- 2009. 3 .12 : CLA 事務局より3月4日付けで望月補佐から「公園施設長寿命化計画策定に当たっての留意点等について」に関する文書が発信されたとのメールあり。北海道支部では、3月30日に長寿命化計画標準歩掛り作成委員会の会合を開くことを決め、各々試案作りを始める。
- 2009. 3 .24 : CLA 理事会。資料を持って関東などの動きを確認するが、特に動きは無いとのこと。
- 2009. 3 .30 : 支部標準歩掛り作成委員会会合。各社持ち寄り試案の検討を行う。
- 2009. 4 .13 : 支部標準歩掛り策定委員会会合。実際の作業をイメージしたシミュレーション作業を行う。
- 2009. 4 .17 : CLA 本部枝吉さんから電話。こっちでも動き始めたから北海道の案を送ってくれ、と連絡あり。
- 2009. 4 .21 : 支部標準歩掛り策定委員会会合。おおむね支部案としてまとめる。
- 2009. 4 .23 : 北海道支部案道庁へ説明。支部案を本部へ送付。
- 2009. 4 .27 : CLA 椎谷さんから本部での検討会の日程などメールあり。
- 2009. 5 .14 : 「公園施設長寿化計画に関する疑問点や確認したい事項」本部狩谷さんから届く。
- 2009. 5 .15 : 狩谷さんに回答。
- 2009. 5 .21 : CLA 支部総会。公園施設長寿命化計画標準業務報酬ガイドライン作成の経緯説明。
- 2009. 5 .28 : CLA 理事会・通常総会。各支部の要請により説明会開催の用意ありとのこと。
- 2009. 6 . 2 : CLA 本部から、標準業務報酬ガイドラインおよび概算表届く。
- 2009. 6 . 5 : 本部案と支部案の突合せ。
- 2009. 6 .11 : 本部に狩谷さんの講師派遣依頼。
- 2009. 6 .16 : 本部より長寿命化仕様書セット届く。
- 2009. 6 .19 : 本部から狩谷さんを招いて説明会の開催。
- 2009. 6 .26 : 道庁主催長寿命化説明会、道庁、札幌市、旭川市、苫小牧市、岩見沢市の担当者が出席して CLA 案の説明会。実際の発注をイメージした積算案を提示。
- 2009. 6 .26 : CLA 本部から公園施設長寿命化計画策定に関する資料（6月版）届く。
- 2009. 6 .30 : 本部からちょっと配布待った！ かかる。
- 2009. 7 .17 : CLA 本部から最終版（7月版）届く。

「公園施設長寿命化計画」業務に係る CLA 版仕様書・報酬ガイドライン等に関する説明会

関東支部では支部会員向けに、「公園施設長寿命化計画」業務の概要についての説明会を開催しました。CLA 版仕様書および報酬ガイドラインについての説明と質疑応答があり、今後の進め方についても活発な意見が出されました。

- ・開催日時：2009年8月6日（木曜日） 13：30～17：00
- ・会場：(株)ランドスケープコンサルタンツ協会会議室
- ・出席者：40名
- ・説明者：狩谷関東支部業務委員会委員長
真鍋 CLA 業務委員会委員



説明会の様子

□千葉県および県内市町村担当者

「公園施設長寿命化計画講習会」の開催

千葉県県土整備部公園緑地課から CLA に依頼があり、千葉県および県内市町村担当者に向けて「公園施設長寿命化計画講習会」を開催しました。その概要は次のとおりです。

- ・開催日時：2009年11月11日（水曜日） 13：30～15：30
- ・会場：千葉県教育会館 303会議室
- ・出席者：約100名（千葉県公園緑地課・千葉県千葉地域整備センター等8地域整備センター・県内市町村・都市再生機構千葉地域支社の担当者）
- ・講習会概要

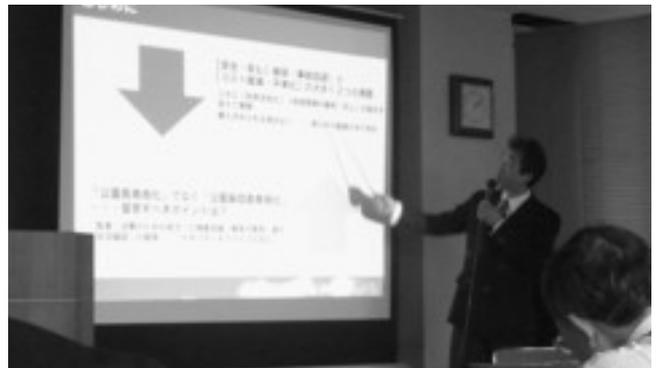
千葉県公園緑地課長の挨拶に引続いて、村岡副支部長が CLA の紹介と RLA の PR を行いました。まず、千葉県公園緑地課担当者から、「公園施設長寿命化計画」のアウトラインと策定事業費補助について説明があり、その後、真鍋 CLA 業務委員会委員が「ガイドライン」の説明を行いました。

ガイドラインを配布するとともに、パワーポイントによるきめ細かな説明がなされました。

質疑応答・意見交換では、公園緑地課、真鍋委員、萩野関東支部技術委員会副委員長が対応しました。「調査で健全度ランク D が出た場合すぐに撤去すべきと考えるが、長寿命化計画を立ててから撤去するのでは遅すぎないか」「改築など工事の分割発注は可能か」「老朽化した遊具の延命のための補修費用には補助は出ないのか」「防災設備など特殊設備はどの程度の調査を行うのか」「長寿命化計画と B/C を一緒に発注したほうがよいのではないのか」等事業費補助や管理者として直面する具体的な質問が数多く出されました。本事業に対する理解が一層深まったと同時に、CLA の PR にも一役買ったのではないのでしょうか。他の都道府県でもこのような説明と意見交換の機会を設けていただけるよう働きかけたいと思います。



村岡副支部長



千葉県公園緑地課担当者

公園施設長寿命化計画策定への取組み

成熟社会に向け公共事業の削減、とりわけ新たな構想や計画が激減する厳しい環境にあります。建設から管理の時代に移行するための的確な施策が公園から出されたことは大変喜ばしくまた感謝しているところです。私どもはこの施策を巧く計画・実施し、来たる時代の新しい都市施設としての公園の長寿命化を実現しなければなりません。

こうした認識の基に当中部支部は昨年11月26日、協会発行の「公園施設長寿命化計画と公園再生計画」の標準仕様書（案）等の説明会を行いました。

当初は支部関係者のみが参加する計画でしたが、愛知県に話をしたところ市町にも聞いてもらってはということになり、結局23区市町、岐阜県8区市町、三重県2市の方に来てもらうことができました。関心が高く予定をはるかに超え、会場を一回り大きくしましたがそれでも入りきらず、

市町の方にはそれぞれできる限り1名に絞っていただき、会場容量限界の60名の参加で行いました。また、中部地方整備局建政部黒澤伸行公園調整官、愛知県建設部公園緑地課風間一課長補佐をはじめ、自治体からは39名、CLA中部支部関係者21名の合計60名が参加していただきました。

今年度の自治体の状況としては、昨年度からすでに取組んでいる県市もありますが、大方は22年度から始める状況です。既存の公園ストック量が多く改修計画を持つ自治体などが早期対応をしています。今年度からは中小市が始めるとともに、積極的な町も実施することになります。全体的には都市公園補助事業を実施している自治体の1/3強程度が実施することになると考えられます。

当支部としては今後も他の団体と協力しながら、自治体への説明会等実施していく予定です。

公園施設長寿命化計画説明会を開催して

関西支部では、6月と10月の2回に亘って説明会を開催しました。6月の説明会は支部総会と合せて毎年開催する研修会として行ったもので、3人の講師に来ていただき、それぞれ異なった視点から講義していただきました。各自治体の担当部局（大阪府下が中心）に呼びかけたこともあり、約100名（CLA関係者50名弱、自治体等50名強）に上る多くの参加がありました。

最初に近畿地整局の高村幸夫公園調整官から事業の成立に至る経緯や目的、効果および枠組み等、基本的なスキームについて講義していただきました。次いで神戸市公園砂防部の青木孝知課長から、21年度から取組む長寿命化計画に関わる具体事業について、方針や進め方等についての説明をいただきました。最後に京都市水と緑の環境部の片山博昭課長から、京都市が進めてきた「公園アセットマネジメント」調査の概要と、「現場における公園管理の実状と

課題」といった側面からの話をいただきました。

この研修会は「長寿命化計画」のみに焦点を絞った研修会ではなかったので、質問もさまざまでした。

10月の説明会はCLA業務委員会の狩谷達之委員に「長寿命化計画」についての具体的な講義をしていただきました。前回と同様、各自治体からの参加を含め約50名が出席しました。CLAのガイドラインを各参加者全員に配布し、これに基づいていねいに解説をしていただきました。大半の参加者にとっては、本事業に関する理解度は一層深まったと思われ、中には詳細な事項に対する具体的な質問も数件ありました。

昨年秋より、自治体から調査費に関する問い合わせが事務局に寄せられていますが、関西地方では21年度の調査の発注は、まだ4～5件程度に留まっているようです。



公園施設長寿命化計画の説明会

九州支部では、平成21年度に会員相互および造園業界団体の交流・協力、技術研鑽を活発にするため、九州ランドスケープセミナーを開催しています。「第1回九州ランドスケープセミナー」を平成22年9月3日（木）に開催しました。「安全・安心のまちづくり」をテーマに、「UR都市機構の公園事業」と「公園施設長寿命化計画」について講演いただきました。

「公園施設長寿命化計画」については、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会の業務委員・眞鍋章良様から、事業の目的や計画の手順などについて「都市公園安全・安心対策に関する調査・計画標準業務仕様書・標準業務報酬積算ガイドライン（案）」にもとづいた説明がありました。

CLA会員をはじめ、行政、コンサルタント、施設業、建設業などランドスケープに係る方々にご案内したところ、行政から19名の参加をはじめ、全体で69名の参加があり関心の高さがうかがえました。

会場から、「着手基準・要件等の統一の必要性」「様式記載等の簡略化による負担の軽減」「様式の統一化」「施設健

全度判定の基準のオーソライズの必要性」等さまざまな意見や質問がありました。今後、実施にあたり改善していく必要があるようです。また業務として発注する場合の具体的な作業内容が分かりづらいとの意見がありました。

九州では数自治体から発注があったようです。また調査の問い合わせも来ているようです。ただ多くの自治体では、調査費や具体的な作業内容等の問題で様子見のところも多いようです。このような状況をふまえ、九州支部では公園施設長寿命化計画についての検証を進めていきたいと考えています。

日 時；平成21年9月3日（木） 13：30～17：00

会 場；福岡市中央区天神2丁目12番1号

天神ビル 11階

出席者；行政；19名

会 員；15名

賛助会員；11名

一般（コンサル・施設業・建設業等）24名

〈質疑応答〉

質問	回答
1. 公園のバリアフリー化と長寿命化を合わせて考える必要があるのでは。	ガイドラインのP.1にも示すように、コンサルとして総合的に対処する必要がある。
2. 自治体が長寿命化計画を進める上で、台帳等の基礎資料がまちまちな中、国の補助を受けるためにこれを実施する場合、着手基準・要件等の統一等も必要では。また、10年後を睨んだフォローアップにどう対処すべきか。	台帳の有無や内容がその後の調査を大きく左右する側面はある。予算的な問題もあろうが、現状では着手要件等に関わる指針はない。事前調査段階で台帳の有無や内容等による温度差が生じる可能性はある。 遊具等の点検は公園施設業協会のマニュアルを引用しているが、重大事故の回避や公園の将来像をふまえる必要もある。 *委員長補足 これまでは公園台帳への関心や利用度がなかったかも知れないが、今後はデータベース化も含めて必要性が高まる。公園の長寿命化計画はPDCAサイクルによる向上が必要である。
3. 自治体として公園長寿命化を今年度実施で考えていたが、計画的な部分だけをコンサル発注しようとしても3,4,000万程度かかりそうで驚いている。様式記載等を簡略化して作業負担等の低減はできないか。	政令都市等では莫大な予算処置が必要になり、行政の予算措置が厳しい認識はある。現在、国との協議を継続中であり、今後内容等についての改定等もあり得る。国の補助採択要件はあるが、重要視すべき公園を対象に実施する等の考え方もあり得る。
4. 公園施設長寿命化の様式を統一したり、他の資料とリンクさせたりできないか。	自治体や受託会社等による個々の状況を考えると、マニュアルでの統一化は難しい。
5. 昨年より自治体として標準化に参画しているが、当初よりも様式がスッキリしたと思う。国との調整や相談は継続すべき点と思う。	現マニュアルをたたき台としてある程度の業務経験を行い、改善点等を見出しながら、より良きガイドラインにしたい。
6. 積算編P.6の点検必要施設分類は基礎資料ありとしての分類か。	YES
7. 特殊設備機器の分類がされていないが、当初公開の資料にはあったと思うが。	標準化が困難なため、再検討の上、都度見積とした。
8. 施設の健全度判定についてはオーソライズされたものと考えてよいか。	公園施設業協会の判定基準を用いているので、今後改定等の可能性はある。

支部報告：平成21年は支部としての活動が不活発な年となった。平成22年は地域活力の支援に一層取組む。

市町村アンケート：「公園施設長寿命化計画 標準業務仕様書（案）」(H21年 CLA 版) 施行実態調査中

調査の目的：昨年策定した公園長寿命化計画の進捗状況の把握と仕様書等の改善計画の参考，集計公表：6月末
 調査対象：東北管内市町村の公園担当者（250市町村），期間：平成22年4月～5月末，調査主体：CLA 東北支部

平成22年4月

市町村各位

公園・緑地等施設担当者様

(株)ランドスケープコンサルタンツ協会（CLA） 東北支部

公園施設長寿命化計画策定に関する実態調査へのご協力をお願い

皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。日頃、当協会活動へのご支援ご協力に改めて感謝いたします。さて、皆様大変お忙しいところ早速ですが、標記調査の件のご協力をお願いでございます。

標記事業につきましては、昨年「全国都市公園・緑化・緑地保全主管課長会議」におきまして、公園緑地・景観課担当官様より「公園施設長寿命化策定に係る歩掛りについては、CLA で検討中であり、各自治体は個別に紹介してほしい」旨、ご回答があり、当協会においてもその対応を強化してまいりました。

平成21年6月に「公園施設長寿命化計画標準報酬積算ガイドライン、標準業務仕様書等」を公表し、各自治体担当者様に CLA 会員名簿とともに7月以降順次送付させていただきましたことはご案内のとおりです。

さらに CLA は、全国各地で本内容の講習会を開催し、皆様のご意見ご要望などを伺って参りました。ただし、東北支部は諸事情により「説明会・講習会」の開催をいたしておりませんでした。このため、東北管内の関係自治体担当者様のご質問やご意見等を調査いたしておりませんでしたので、今回のアンケートのお願いとなりました。事情ご理解のうえよろしくご意見等のほどお願い申し上げます。

下記質問に各自治体担当者様のご回答・意見をいただければ幸いです。（本用紙にご記入 FAX 送信下さい）

＝ 記 ＝

- Q0. 回答者市町村（このみ任意）： 県 市・町・村 課 （お電話番号： - - ）
- Q1. 当協会策定「公園施設長寿命化計画資料」等をご存知でしたか？ (はい、いいえ)
- Q2. 「公園施設長寿命化計画標準業務仕様書」の仕様書は参考にされましたか？ (はい、いいえ)
- Q3. 「 " 標準業務報酬ガイドライン」の歩掛りは参考にされましたか？ (はい、いいえ)
- Q4. ご発注時に際して本仕様書やガイドラインのご不明な事項の有無を伺います？ (ある、 ない)

仕様書について：.....

ガイドラインについて：.....

- Q5. 長寿命化計画に際して、本調書様式等を参考に採用されましたか？ (はい、いいえ)
- 自ら調査した場合、その理由等：.....

外部委託した場合、その理由等：.....

- Q6. 標準業務歩掛について (高い、普通、低い)
- ご意見：.....

- Q7. その他ご意見・ご要望、今後の基準改定に向けてのご意見など
-
-

お問い合わせ先：CLA東北支部事務局 支部長 岩瀬善弘 公印省略
 980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25号 (株)復建技術コンサルタント内
 TEL：022-217-2034, FAX：022-265-9309 iwabuti@sendai.fgc.co.jp

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

平成21年4月現在

◎：会長 ○：副会長 ◇：常任理事

正会員（五十音順）						
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号	
(株)アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口 隆 康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018	
(株)アーバンデザインコンサルタント	092-589-0081	◇堤 八恵子	812-0888	福岡市博多区板付4-7-28	092-589-0080	
(株)愛植物設計事務所	03-3291-3380	山本 紀 久	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381	
(株)あい造園設計事務所	03-3325-6660	○細谷 恒 夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262	
アジア航測(株)	03-3348-2261	赤土 攻	160-0023	新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル	03-3348-2231	
(株)荒木造園設計	0727-61-8874	荒木 美 眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234	
(株)荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	矢野 順 也	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575	
(株)アルファ計画研究所	045-263-3091	熊井千代治	231-0065	横浜市中区宮川町3-83 イワサキビル	045-263-3094	
(株)ウエスコ	086-254-2433	永山 彰	700-0033	岡山市島田本町2-5-35	086-256-5161	
(株)エーシーイー	03-3952-3171	玉村 寿 秀	165-0024	中野区松が丘2-32-19	03-3952-3177	
(株)エイト日本技術開発	03-5385-5111	川尻 幸 由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520	
(株)エキープ・エスパス	03-3407-4368	峰岸 久 雄	107-0062	港区南青山5-4-29	03-3407-4419	
(株)エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田 主 税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617	
(株)LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本 忠 順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715	
(株)オオバ	03-3460-0127	萩野 一 彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160	
(株)環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	杉浦 力	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696	
(株)環境事業計画研究所	075-703-7531	吉村 龍 二	606-8166	京都市左京区一乗寺庵野町33-1	075-703-7530	
環境設計(株)	06-6261-2144	井上 芳 治	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146	
(株)環境設計研究室	03-3584-1251	川瀬 篤 美	107-0052	港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館11階	03-3584-1877	
(株)環境デザイン研究所	03-5575-7171	中山 豊	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928	
(株)環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下 慶 浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576	
(株)環研究所	06-6306-2481	大石 博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614	
キタイ設計(株)	0748-46-4902	梶 雅 弘	521-1398	蒲生郡安土町上豊浦1030	0748-46-5620	
(株)空間創研	075-353-6337	◇吉田 昌 弘	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ瀬下る蔵屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338	
(株)空間文化開発機構	06-6229-0130	真鍋 建 男	541-0046	大阪市中央区平野町1-8-8 平野町安井ビル	06-6229-1292	
(株)グラック	03-3249-3010	○枝吉 茂 種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685	
(株)KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301	
(株)景観設計研究所	06-6535-0175	山田 直 樹	550-0012	大阪市西区立売堀1-2-14 本町産金ビル	06-6535-0176	
(株)景観設計・東京	03-5435-1170	都田 徹	141-0031	品川区西五反田3-8-3 町原ビル	03-5435-0909	
(株)景観プランニング	028-650-3030	阿久津純一	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034	
(株)国土開発センター	076-233-5333	小川 秀 一	920-0031	金沢市広岡3-1-1 金沢パークビル	076-233-5777	
サンコーコンサルタント(株)	03-3683-7152	有賀 一 郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116	
(株)シビックデザイン研究所	03-3226-9821	出来 正 典	160-0022	新宿区新宿1-13-11 シブヤビル	03-3226-9815	
(株)新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260	
(株)スペースビジョン研究所	06-6942-6569	宮前 保 子	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897	
セントラルコンサルタント(株)	03-5117-1061	高野 英 生	104-0042	中央区入船1-4-10	03-5117-1081	
(株)ZEN 環境設計	092-643-5500	中村 久 二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520	
(株)爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692	
(株)創建	052-682-3848	井上 忠 佳	456-0018	名古屋市熱田区新街頭1-10-1	052-682-3015	
(株)総合計画機構	06-6942-1877	◇糸谷 正 俊	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6942-2447	
(株)総合設計研究所	03-3263-5954	木村 弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996	
(株)総合庭園研究室	03-3300-1524	中島 寛 久	182-0003	調布市若葉町1-35-5 フォレストヒルズ仙川	03-3300-4749	
創和エクステリヤ(株)	045-662-8028	風間 伸 造	231-0014	横浜市中区常盤町2-11 大宗トキワビル	045-662-8664	
第一復建(株)	095-557-1300	畠山 美 久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110	
大日本コンサルタント(株)	0489-88-8119	伝谷 恵 一	343-0851	越谷市七左町5-1	0489-88-3115	
高野ランドスケーププランニング(株)	0155-42-3181	金清 典 広	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チネル小学校	0155-42-3863	
玉野総合コンサルタント(株)	052-979-9111	田部井伸夫	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112	
(株)タム地域環境研究所	03-5345-5745	秋山 寛	165-0026	中野区新井2-30-4 IFOビル	03-5345-5747	
(株)地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑 中 直 樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6941-7478	
(株)地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595	

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
中央コンサルタンツ(株)	052-551-2541	藤 本 博 史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540
(株)東京ランドスケープ研究所	03-5988-2800	佐々木 亨	161-0033	新宿区下落合4-25-18 目白ハイビル	03-5988-2811
(株)ドーコン	011-801-1535	大塚 英典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536
(株)都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波多野芳紀	540-0034	大阪市中央区島町2-4-9 島町第二野村ビル	06-6946-9747
(株)都市計画研究所	03-3262-6341	佐藤 憲 璋	103-0014	中央区日本橋蠣殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
(株)トデック	03-5638-2176	越 智 常 博	135-0007	江東区新大橋1-8-11 三井生命新大橋ビル	03-5638-2168
(株)ナカタ空間企画	06-6930-4890	中 田 政 廣	536-0015	大阪市城東区新喜多1-2-17-104	06-6930-4896
中日本建設コンサルタント(株)	052-232-6032	中 西 秀 伸	460-0003	名古屋市中区錦1-8-6	052-221-7827
(株)中根庭園研究所	075-465-2373	中 根 史 郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374
(株)虹設計事務所	03-3419-7259	光 益 尚 登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246
(株)日建設計	03-5226-3030	根 本 哲 夫	102-8117	千代田区飯田橋2-18-3	03-5226-3053
(株)日水コン	03-5323-6200	小 林 昌 毅	163-1122	新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー	03-5323-6480
(株)日本総合計画研究所	03-3254-9668	坂 本 圭	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714
(株)ニュージェック	06-6374-4032	出 口 直 彦	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
パシフィックコンサルタンツ(株)	042-372-6530	西 上 律 治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349
(株)フジランドスケープ	03-5719-2919	新 井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
(株)復建技術コンサルタント	022-262-1234	◇岩 渕 善 弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計(株)	082-506-1853	真 鍋 章 良	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
(株)ブレック研究所	03-5226-1101	前 澤 洋 一	102-0083	千代田区麴町3-7-6 麴町 PREC ビル	03-5226-1112
(株)ヘッズ	06-6373-9369	◎大塚 守 康	530-0022	大阪市北区浪花町12-24 創建天六ビル	06-6373-9370
北海道造園設計(株)	011-758-2261	◇及 川 渉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
(株)ポリテック・エイディディ	03-3456-3010	徳 丸 秀 夫	105-0014	港区芝1-5-12 TOP 浜松町ビル	03-3456-3015
(株)三菱地所設計	03-3287-5750	藤 江 哲 也	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
(株)緑設計	018-862-4263	板 垣 清 美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	018-862-4273
(株)緑の風景計画	03-3422-9511	福 添 隆 二	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
(株)森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤 内 誠 一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第2ビル	03-3582-2758
(株)ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇村 岡 政 子	136-0071	江東区亀戸2-36-12	03-5626-4740
(株)LAT 環境クリエイト	082-273-2605	青 木 成 夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
(株)ランズ計画研究所	045-322-0581	川 島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
(株)リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新 井 英 光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
(株)緑景	06-6763-7167	瀬 川 勝 之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
(株)緑生研究所	042-499-7211	井 上 康 平	182-0026	調布市小島町2-40-10 桐生ビル	042-487-4334
準会員 (五十音順)					
(株)エコシビルデザイン	03-5362-3701	上 村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
(株)エコル	03-5791-2901	庄 司 悦 雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪階成ビル	03-5791-2902
(株)環境緑地研究所	011-221-4101	小 川 興 司	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
(株)現代ランドスケープ	06-6203-1270	西 辻 俊 明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
(株)サイプレス・ランドスケーププランニング	011-211-6811	中 村 圭 吾	060-0062	札幌市中央区南2条西10丁目2 山内ビル	011-211-6812
(株)シビテック	011-816-3001	笹 浪 徹 也	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
(株)シャトーシービー	0268-62-3255	細 谷 順 義	389-0502	東御市鞍掛383-9	0268-62-3256
(株)セット設計事務所	042-324-0724	池 田 与 志 雄	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
ガイシン設計(株)	011-222-2325	関 利 洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
(株)塚原緑地研究所	043-279-8005	塚 原 道 夫	261-0011	千葉県美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
(株)辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻 本 智 子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
(株)東京建設コンサルタント	03-5980-2633	和 田 淳	107-0004	豊島区北大塚1-15-6	03-5980-2601
(株)都市ランドスケープ	03-5269-8982	内 藤 英 四 郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-5269-8982
(株)都市・景観設計	06-6228-3388	奥 村 信 一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387
(株)パーク総合デザイン	075-343-4436	松 原 法 昭	600-8357	京都市下京区猪熊通5条下る柿本町595-28	075-343-4870
(株)ライヴ環境計画	011-204-7922	有 山 忠 男	060-0042	札幌市中央区大通西14-1-13 北日本南大通ビル	011-204-7955
(株)緑住環境計画	042-525-4560	松 岡 二 三 夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
(株)緑政計画研究所	03-3265-8482	飯 塚 良 一	101-0065	千代田区西神田2-4-1 東方学会新館	03-3265-8483

賛助会員（五十音順）

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
アゴラ造園(株)	03-3997-2108	高橋正之輔	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
荒木窯業(株)	0942-27-3231	福山 茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設(株)	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
(株)ウォーターデザイン	03-3431-8070	流郷幹男	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業(株)	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市市中川区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C(株)	0956-48-8102	岩崎英喜	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
(株)岡部	0764-41-4651	竹中祐利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
小岩金網(株)	03-5828-8828	島倉邦彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
(株)コトブキ タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	上野山直樹	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
(株)ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	小山幹雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
(株)サカエ	0422-47-5981	栗田嘉嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
(株)サトミ産業	0258-35-3005	佐藤 勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
(株)三英 景観事業部	04-7153-3141	尾山弘善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
(株)三榮企業	042-386-8760	長嶋孝衛	184-0014	小金井市貫井南町4-11-36	042-386-8761
(株)サンエス	042-564-1021	横倉 登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
(株)ジオスケープ	03-3588-5990	須田清隆	105-0001	港区虎ノ門2-2-5	03-3588-5991
西武造園(株)	03-6863-3732	大嶋 聡	171-0022	豊島区南池袋2-30-11 池袋第一生命ビル	03-6863-3733
大永ドリーム(株)	027-269-6084	永島勝治	371-0131	前橋市鳥取町158-7	027-269-6086
太陽工業(株) 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	坂手素行	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ(株)	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
(株)立山エンジニアリング	03-3449-6831	岩撫徳昭	141-0022	品川区東五反田1-8-12 小原サンデンビル	03-3449-6837
(株)中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業(株)	03-5703-1441	小俣智裕	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業(株)	03-3405-1813	田中秀明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ(株)	03-5276-1101	星野弘壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ(株)	06-6767-1110	木田幸男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン(株)	0568-88-7080	池上英雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ(株)	0543-35-6271	石田勝若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
(株)中村製作所	047-330-1111	朝倉辰夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
(株)ナベシマ	093-617-3039	鍋島雅英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業(株)	03-3333-0210	結城健治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設(株)	03-5337-2616	奥 裕之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設(株)	03-3422-5331	倉部 篤	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園(株)	075-341-2246	山田昌次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
(株)日比谷アメニス	03-3453-2401	奥本 寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2426
(株)富士植木	03-3265-6731	成家次男	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
(株)丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
(株)みぞい	022-255-9770	溝井敏男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
ミロモックル産業(株)	06-6390-0102	西森洋史	532-0011	大阪市淀川区西中島5-1-8 日研ビル	06-6307-2133

2010年

RLA

申込期間

2010年5月7日(金)～6月14日(月)

Registered Landscape Architect

登録ランドスケープアーキテクト資格認定試験

001 002 003 004 005 006 007 008 009 010 011 012 013 014 015 016 017 018 019
 020 021 022 023 024 025 026 027 028 029 030 031 032 033 034 035 036 037 038
 049 040 041 042 043 044 045 046 047 048 049 050 051 052 053 054 055 056 057
 058 059 060 061 062 063 064 065 066 067 068 069 070 071 072 073 074 075 076
 077 078 079 080 081 082 083 084 085 086 087 088 089 090 091 092 093 094 095
 096 097 098 099 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114
 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133
 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152
 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171
 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190
 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209
 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228
 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247
 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266
 267 269 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285
 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304
 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323
 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342
 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361
 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380
 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399
 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418
 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437

RLAは現在436人

437人目はあなたです



2010年度 試験日

9/12 (日)

お問合せ先

RLA 資格制度総合管理委員会事務局
 〒102-0082 東京都千代田区一番町9-7 一番町村上ビル 2F
 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会内
 TEL 03-3237-7371 FAX 03-3239-7610
 e-mail info@landscape-architect.org

試験実施機関

RLA 資格制度総合管理委員会
 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

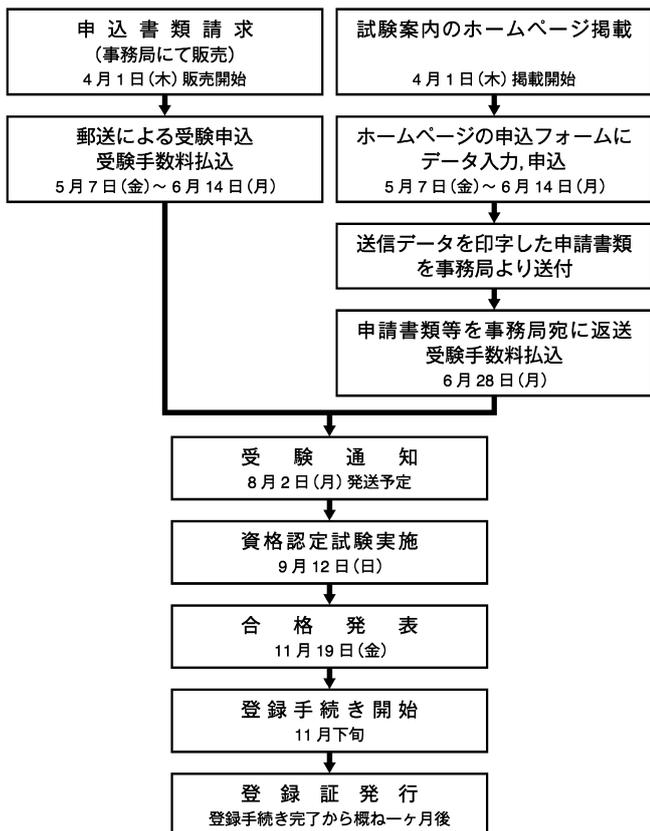
2010年 登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格認定試験の実施について

2010年1月1日

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度総合管理委員会
社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度実施規程に基づく「登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格認定試験」(以下「RLA 資格認定試験」) を下記のとおり実施します。

1. RLA 資格取得までの流れ



※ 部分受験(再受験)の方については別途事務局より試験案内をさせていただきます

2. 試験実施日時

2010年9月12日(日) 9時00分～19時00分

3. 試験地

東京・大阪の2地区

4. 受験手数料

15,750円(税込み)

5. 申込受付期間

2010年5月7日(金)～6月14日(月)

6. 受験資格

学歴により、以下のいずれかに該当する者。

学歴	ランドスケープアーキテクチャに関する 必要な業務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大学卒業	卒業後3年以上の 実務経験を有する者	卒業後5年以上の 実務経験を有する者
	この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	
短期大学卒業 高等専門学校(5年制) 卒業	卒業後5年以上の 実務経験を有する者	卒業後7年以上の 実務経験を有する者
	この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	
高校卒業	卒業後10年以上の 実務経験を有する者	卒業後12年以上の 実務経験を有する者
	この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	
上記以外の者	卒業後15年以上の 実務経験を有する者	
	この年数のうち1年以上の指導的実務経験年数が含まれていること	

(注) 1. ランドスケープアーキテクチャに関する業務経験とは、ランドスケープアーキテクチャ事業の計画・調査・立案・助言及び設計・監理の業務に従事した業務経験をいいます。
2. ランドスケープ系大学院の課程を修了した場合は、正規課程の年数を業務経験年数として計上することを認めます。
3. 指定学科とは、造園、緑地、農学、林学、環境、園芸、都市、地域、土木、建築系等のランドスケープアーキテクチャに関する学科をいいます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

7. 試験の一部免除について

技術士を所有する方は、必要な書類を提出することにより、本資格認定試験の一部免除を受けることができます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

8. 申込方法

申込方法は、左図のとおり①ホームページからの申込と②郵便による申込の2つの方法があります。

①はホームページ上に掲載される申込フォームに必要事項を入力し申込んだ後、事務局より返送される申込用紙に署名、押印した書類を郵便にて提出する方法です。

②は事務局より申込用紙を購入し、必要事項を記入、署名、押印のうえ、郵便にて提出する方法です。

※ インターネットが利用できる環境の方は①をお勧めいたします

9. 「申込用紙」の販売

1部600円で4月1日から下記事務局にて販売します。

申込用紙の郵送をご希望の場合は、事務局までお問合せください。

試験実施機関 〒102-0082 千代田区一番町9-7 一番町村上ビル2階 TEL 03-3237-7371

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会内

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度総合管理委員会 事務局 (土、日、祝祭日は休日です)

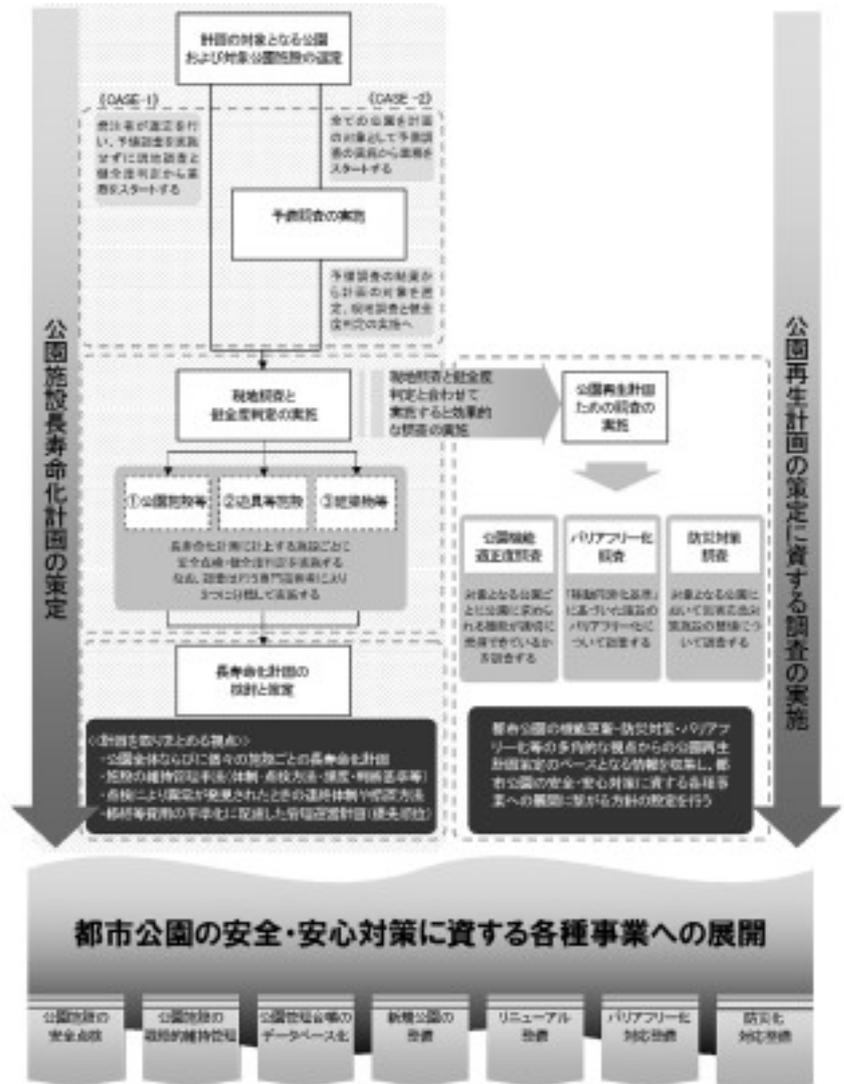
試験に関する詳細な情報は、ホームページ (<http://www.landscape-architect.org/>) でご覧になれます

□お知らせ

当協会では、クライアント各位の業務発注支援資料として、毎年、「会員名簿」、「造園 調査・計画・設計 標準業務報酬積算ガイドライン」を発行し無償にて配布させていただいております。

また昨年より上記の資料に加え、公園施設長寿命化計画の策定を含む「都市公園安全・安心対策に関する調査・計画（公園施設長寿命化計画と公園再生計画）」の標準業務仕様書（案）および同標準業務報酬積算ガイドライン（案）を発行し、個別相談にも応じております。

現在、昨年の実績を踏まえ改訂版の取りまとめ作業を進めております。7月頃を目処に公表する予定ですので今しばらくお待ち願います。



標準業務のフロー図 (標準業務仕様書(案)より抜粋)

〈編集後記〉

新年度のスタートとなる今号は、恒例の「CLA 賞の受賞作品」特集号となっています。また、「長寿命化計画に関する活動報告」もまとめていますので一読ください。
 「CLA 賞受賞作品」では、会員の優れた作品や業務が掲載されています。受賞作品は幅広いテーマの力作ばかり。ランドスケープ業界の実力のほどをお楽しみください。そして、我こそはと意気込む皆さま、次回の募集の際には、是非、ご応募ください。お待ちしております。
 「公園施設長寿命化計画」に関して、各支部での活動を紹介しました。各地の都市公園が高齢化する中で、適切な維持管理や更新が必要となり、21年度には補助制度が新設され、今年度以降

は関連業務の発注件数の増加が見込まれています。当協会ではいち早く標準業務仕様書を作成し、各自治体に配布しています。
 各支部では、講習会を開催するなど、本事業に対する理解を深めるための活発な活動を行っています。行政の参加も多く、関心の高さが伺えます。そこでの質疑応答などは支部を超えて共有化することで、協会全体のスキルアップにつなげることができるとよいと思います。
 長寿命化計画では、緊急に対応すべき箇所への対応と同時に、ユニバーサル化や環境負荷の軽減など、総合的な視点が重要であり、ランドスケープコンサルタントの新たな活躍が期待されています。(i)

2010 No.170

CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日●2010年5月15日
 発行人●大塚守康
 編集●社ランドスケープコンサルタンツ協会 広報委員会
 発行所●社ランドスケープコンサルタンツ協会
 〒102-0082 東京都千代田区一番町9-7
 一番町村上ビル
 TEL 03-3237-7371 FAX 03-3239-7610
 http://www.cla.or.jp



ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.cla.or.jp>